

水辺をつたえる 水辺でつながる

平成 22 年度「水辺を活かす」活動事例集

編集・発行 (財)リバーフロント整備センター



本書は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです



水辺をつたえる 水辺でつながる

平成 22 年度「水辺を活かす」活動事例集



編集・発行

(財) リバーフロント整備センター

目次

CONTENTS

はじめに	3
------------	---

平成 22 年度 「水辺を活かす」活動報告

活動団体マップ	4
活動報告	6
活動写真館	54

これまでの報告から

応募団体の概要	70
アンケートまとめ	71
活動団体一覧	72

はじめに

全国各地には水辺をフィールドにし、地域の水辺から学び、そして伝える活動を行っている市民団体や学校が多くあります。

（財）リバーフロント整備センターでは、平成 11 年度から市民団体等の方々が河川等の水辺に関わる自然体験や環境教育等の活動に対して助成する活動助成事業を行ってきました。また、（財）日本宝くじ協会の協力を得て、その活動報告を事例集として発刊しています。

平成 22 年度は、「水辺を活かす活動助成事業」に対し、全国各地の団体から 120 件の応募をいただき、このうち 24 団体の方々に当センターの助成を活用してさまざまな活動を実施していただきましたので、その活動報告をご紹介します。

この事例集によって各地で取り組んでいる方々の励みになるとともに、今後の多くの活動の参考になれば幸いです。

なお、本冊子に記載されている河川名等は、各団体から提出のあった活動報告書をもとに記載しているため、地域・地区での呼称もあり、必ずしも管理者が定める名称ではありません。活動目的・活動内容・活動の効果・反省点等についても、活動報告書を概ね原文のまま記載しています。

平成22年度 活動団体マップ

*「活動報告」のページ数
*「活動写真館」のページ数

【九州】

- ▶ 太宰府エコロなネットワーク P46 P66
- ▶ 熊本市立大江小学校 P48 P67
- ▶ NPO 法人 五ヶ瀬川流域ネットワーク P50 P68
- ▶ 永田川里山会 P52 P69

【北陸】

- ▶ 塩谷分校 P24 P61
- ▶ NPO 法人 河北潟湖沼研究所 P26 P62

【中国】

- ▶ 鳥取市立用瀬小学校 P44 P66

【近畿】

- ▶ TAKANAMI こども環境クラブ P36
- ▶ NPO 法人 あいうえお堺 P38
- ▶ 服部緑地・天竺川周辺
「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会 P40 P65
- ▶ 三谷生き物調査隊 P42

【北海道】

- ▶ NPO 法人
河川環境センター知利別川を愛する会 P6 P54

【東北】

- ▶ NPO 法人 いわき環境研究室 P8 P55
- ▶ 保原町環境ワーキンググループ P10 P56

【関東】

- ▶ 坂川とまちづくり市民の会 P12
- ▶ 松山城跡周辺の市野川を再生する会 P14 P57
- ▶ NPO 法人 武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会 P16 P58
- ▶ 南白糸台小学校せせらぎ広場運営協議会 P18 P59
- ▶ 狛江市立狛江第六小学校 P20
- ▶ 川と水辺を楽しむプロジェクト P22 P60

【中部】

- ▶ 川の自然と文化研究所 P28
- ▶ NPO 法人 木曽川・水の始発駅 P30 P63
- ▶ 女鳥羽川のホタルの里を守る会 P32 P64
- ▶ 山崎川グリーンアップ P34

知利別川 水と生き物・いのちのつながり



活動日：H22 8/29, 9/11 ~ 13
参加者：小中高大学生、一般
人数：約 400 人

NPO 法人 河川環境センター知利別川を愛する会

代表：高橋浩子 担当：高橋直美
✉ kasenkankyo@hotmail.com

活動の目的

市街地を流れる知利別川は、生活排水の流入等により川が汚れた状態が長く続いた為、地域住民と川との繋がりが薄れていた。ふるさとの川モデル事業により地域に親しまれる水辺として再生されたが、水や生物への関心はまだ高くなく、生息環境の保全が必要なサクラマス（ヤマメ）やシベリアヤツメなどの希少種のほか、多様な生物が生息していることはあまり知られていない。

ふるさとの川を愛する心を育むよう、川と人を繋ぎ、水・生物・森の働きなど、知利別川を取り巻く環境への関心を高め、水環境と生物多様性について理解を深めること。また、地域の環境学習の場として発展させることを目的に実施した。



「いのちのつながり」コーナーの絶滅危惧種のパネル展示

活動の内容

知利別川らん蘭橋を会場に、7つの体験プログラムを巡り「水・川・森・生物多様性」について学ぶ、環境学習イベントを開催した。

- ① パックテスト・pH 測定・EC 測定による水の性質の実験と解説
- ② 魚類・エゾサンショウウオの観察と生態解説、投網の実演
- ③ 絶滅危惧種のパネル展示と解説、環境絵本読み聞かせ
- ④ Project WET
- ⑤ 森づくりのパネル展示と解説、おが粉アート工作
- ⑥ 模型を使用した河川氾濫の解説、知利別川現況 図の展示と解説
- ⑦ ボートでの川下りと箱メガネを使用した水中観察



「水族館」コーナー。エゾサンショウウオの展示観察をしました。

活動の効果

野外イベント型学習会にしたことで、家族連れなどの幅広い年齢層の参加が得られた。各コーナーでは観察や実験、工作などが体験でき、子どもから大人までが楽しみながら水や生き物について身近なものとして学んでもらうことが出来た。

また、知利別川にボートを浮かべるのは初の取り組みで、栈橋を組む苦労はしたが、参加者から好評をいただいた。直接川に触れることで、知利別川の環境への関心を高めることに繋がった。

この学習会は、企画段階から河川管理者の北海道室蘭建設管理部と北海道胆振総合振興局環境生活課・林務課、室蘭工業大学に協力いただき、知利別川を軸とした地域の連携を深めることが出来た。

苦労した点・反省点

- ★ イベント中のテントや水の事故を防ぐ安全管理体制の強化
- ★ より理解を深めてもらえるよう、各テーマの関連性を明確にする工夫
- ★ 地域住民や他環境活動団体等との連携を広め、地域の環境学習の場として継続開催を目指す



川下り。箱メガネで水中を観察しています。

小中学校への川の環境学習支援事業



活動日：H22 6月～10月計6回
参加者：小中学生
人数：延べ220人

NPO 法人 いわき環境研究室

代表：橋本孝一

<http://www4.ocn.ne.jp/~iwaki-kk/>

iwaki-k-k@joy.ocn.ne.jp

活動の目的

小中学校での総合的な学習の時間を利用し、河川の水生生物および水質調査の体験学習を通して身近な水辺空間の実態を知り、きれいな水環境を守るために何をすべきかを学んでもらう。

野外学習と座学とを組み合わせ、水環境が「流域」で成り立っていることや、水質保全のために流域が連携することの意義を理解させる。



好間川（夏井川の支流）の上流・中流・下流の3カ所で採水してきた水をパックテスト等で水質検査をしているところ。

活動の内容

福島県が推奨している「せせらぎスクール」を基本とする水生生物調査に、当NPOが考案する独自のメニューを加えた講座を小中学校で実施した。河川環境が地域ごとに異なることや、毎年開催している学校ではメニューを更新する必要があることなどから、講座を開催する学校に則したテキストを制作して講座を開催した。

具体的には、学校近隣の河川での水生生物採取、当該地点だけでなく上流側・下流側との水質比較の実習、家庭排水が河川に与える影響実験、座学による河川流域の環境学習を実施した。

活動の効果

児童・教諭ともに学校の授業では学習できない貴重な体験ができたこと好評を得た。子供達からは「通学の途中で普段目にしている川から新しい発見があった」「予想以上に多くの生き物がいて驚いた」「川をきれいにしなければならないことを実感した」などの意見が寄せられた。

川は危険な場所として敬遠されてきたが、きちんとした指導の下であれば、最適な環境教育の場であることを先生方にも理解していただいた。



戸草川で水生生物の採取をしているところ。生徒・教諭の他に地元の方も加わって調査した。



5年生2クラス59名が数グループに分かれて、水生生物の採取。安全確保のため保護者も参加した。

苦労した点・反省点

講座の話を聞きつけて開催の要望が年々増加しているが、環境教育への財政支援がないのが現状である。予算や対応するスタッフの確保に努めつつ今後も継続していきたい。



川の流域について学習しているところ。

地域水辺の環境調査と改善策の提言、実践、啓蒙



活動日：H22 1月～H23 1月
参加者：小学生、一般
人数：約150人

保原町環境ワーキンググループ

代表：滝沢由一 担当：菅野幸雄

活動の目的

保原町を水源とする古川、東根川、伝樋川の三河川は耕地を通り市街地を流れ、阿武隈川に流入する。昭和30年代までは生物が豊富に棲む清流で、住民の憩いの場であった。その後、都市化が進み、生活排水や工場排水が多量に流れ込み水質は汚濁し、悪臭を放ち黒く淀み水面は泡立ち、瞬く間に「死の川」と化した区間が多く見られ、川の多くはゴミ捨て場になってしまった。

十年前この川にどうにかして以前の清流を取り戻そうと「環境ワーキンググループ」が有志の方々により立ち上げられ、河川の水質調査を基に関連する環境浄化や保全等について市当局に改善策を提言し、地域の住民に浄化の協力を呼びかけ、具体的な活動の推進を図ることを目的としている。



透視度の測定。
採水したら直ちに明るいところで測定する。

活動の内容

- ① 上記の三河川で16の調査地点を設定し毎月1回採水し、さらに関連する池沼の水温、透視度、pH、COD、DO、電気伝導度等10数項目にわたり調査を続けた。
- ② 水質調査中でホタルの棲息が確認されたのでその調査、保護増殖活動を進めている。
- ③ ホタルの棲息する地域の小学校で、環境学習に熱心に取り組んでいるので、ホタルの餌であるカワニナの飼育、我々が孵化させたホタルの幼虫放流等の支援を行った。
- ④ 地域住民協力に依り雑草の繁茂する河川土手の一斉草刈りの計画と実践指導。
- ⑤ 東根川系の灌漑用水池に昨年8月、外来種の「オオマリコケムシ」が突然大量に発生し（テレビで全国に報道）発生原因と駆除処理の研究を進め、住民の協力で駆除処理を行った。



7月地域住民の協力で「古川」土手の一斉草刈り。
この活動により住民の川清掃の意識が高まってきた。



地元の用水池に突然発生した外来種の「オオマリコケムシ」。これで15kg位の大きさである。内部は寒天質で奇怪な生物である。

活動の効果

- ★ ①の河川、池沼の水質調査の結果は町内会、町文化祭などで公表説明し、家庭排水の処理等呼び掛けてきた結果、住民の河川水質への関心が高まり浄化の傾向が見られる。
- ★ ②のホタルの保護活動は、③の小学校の環境学習と共同でカワニナの飼育が地域の方々の無農薬野菜の提供などでよく育ち、我々の水槽を使用したホタルの孵化幼虫の飼育が順調に進み、幼虫の地元河川への放流など学校、地域の関心が大きくなっている。
- ★ ④川土手の住民一斉草刈り作業は河川の浄化意識が高揚され、今後恒例行事に発展。
- ★ ⑤「オオマリコケムシ」の駆除は多くの住民の協力で約2トンを消石灰を散布し土中埋設処理した。声を基に池の水源地の整備、排水対策浄化活動が始まってきた。

苦労した点・反省点

- ① 川池の水質調査の結果を、より多くの住民に理解していただき浄化に協力を得る方策。
- ② 「オオマリコケムシ」の処理で消石灰散布が個虫の死滅を確かめたが、埋めた土中で発生が予測される休止芽の有無の確認と死滅させる処理方法の研究が大きな課題。



小学生による地元の小川へのカワニナとホタルの幼虫の放流。小学生はカワニナを飼育し、増殖させている。

坂川散策マップづくり



活動日：H22 12月17日
参加者：一般
人数：30人

坂川とまちづくり市民の会

代表：近藤善信 担当：金子敏之

mckasenseiryu@city.matsudo.chiba.jp

活動の目的

松戸の市街地の中核部を流れる坂川では、再生事業が進み豊富な動植物が戻ってきている。しかし、沿川住民以外の方々の認知度は必ずしも高いとは言えません。この蘇った坂川の自然を多く市民に伝えたいと考え、川に戻ってきた動植物を中心とした水辺と周辺の歴史・文化を交えたマップを作成し、広く配布することで、より多くの市民に知ってもらい、水辺でのふれあいを促進していく。



坂川とまちづくり市民の会会議風景

活動の内容

当会では、隔月に行われる坂川の清掃活動を通じて川の自然や動植物、歴史建造物の重要性を取材を通して再確認をした。

また、取材で得た情報を元に動植物の識者の意見や歴史的建造物の歴史を調査した。

坂川を舞台にする各種事業に際し、マップを通じて来場者に知っていただくと共に、近隣小中学校の教材資料として活用し、坂川が地域に誇れる財産との認識を伝えた。

活動の効果

地元商店会や自治会と協力して坂川再生事業後に始まり昨年で5年目を迎える「献灯まつり」は市内外から多くの来場者を迎える。

また、昨年より始まった「河津さくらまつり」などの各種事業を紹介しつつ坂川の歴史と豊富な自然を紹介することで坂川が松戸市にとって貴重な資源である事への再発見と環境保護への重要性を訴えるきっかけとなったと考えます。



隔月好例の坂川清掃。清掃活動に併せて動植物の調査も行います。

苦勞した点・反省点

今回の調査で地元に残る故事の豊富さに驚いたが高齢化が進むにつれ、郷土の歴史が失われつつある危機感を感じた。地元に残る歴史の伝承と蘇った自然の大切さを環境問題を含めて次代へ継承していく重要性を痛感した。



散策マップ裏面

校歌に唄われる市野川、生き物調査と水環境



活動日：H22 7月6日

参加者：小学生、一般

人数：110人

松山城跡周辺の市野川を再生する会

代表：渡辺仁

✉ yama1947-jin@krc.biglobe.ne.jp

活動の目的

新宿小学校の校歌に唄われる市野川は、吉見百穴・松山城跡で蛇行して東松山市と吉見町の間を南流している。古代・中世の歴史的背景をもつ田園都市風景の里川でもあるが、これから約10年も継続される河川改修工事と下流の「諏訪堰」による停滞水域の出現によって、学校付近の低水護岸は親水性に欠け近寄りがたく、水質も夏季にはアオコ発生などが見られる。

そこで、この周辺を子供達が安心して遊び、身近な生き物調査・環境学習を通して環境保全の大切さを地域社会に発信し、環境・景観の整備を期して住みよい田園都市河川を創出するようにする。



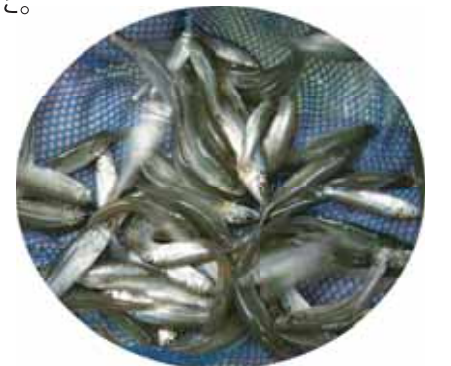
9つの班がミニ水族館を作成し、事前に配布した「埼玉県に生息する主な魚類」のテキストと照合して同定・分類を記録する。わからない種類については、アドバイザーや川づくり協議会、再生の会員、理科担当教諭より指導を受けた。

活動の内容

1. 4月新学期より学校応援団会議の学習支援活動として、理科・環境教育主任の先生と打合せ開始。
2. 7月5日（月）1.5Km上流の「瀬」にて水生昆虫サンプル採集（アドバイザー同行）。日没前に小学校近辺の「流れ川橋（沈水橋）」右岸の高水敷に、教諭と一緒に簡易仕掛け網（エサ）12個セット。
3. 7月6日（火）9:00より6年生全員（100人）の理科授業「自然を守る取り組み＝市野川の水生生物調査」開始、再生する会員及びアドバイザーによるミニ水族館を作り、網の回収・分類・同定など指導。
4. 同日11:00より多目的教室にて、市野川水質のバックテスト体験。水質保全の大切さを学ぶ。

活動の効果

1. 灌漑期の「流れ川橋」周辺の水位は高く、子供達だけでは危険なことを再認識。
2. 止水域の上流には、水生昆虫などが比較的多く生息することを確認し、今回の仕掛け網にはモツゴ、ギンブナ、タモロコ、稚ゴイ、テナガエビ、ヌマエビ等が多く生息する（多様性）ことを実地体験した。
3. 国指定「吉見百穴」より下流の市野川は、各地で生活雑排水が入るため、やや汚い川とされる「河川C類型」（埼玉県基準類型）であることを知り、川をきれいにする事の大切さを学んだ。
4. 約6.0Km上流の「市野川水系の会 in 滑川」との上・下流交流会（川あそび）に参加し、共に川のつながりの大切さ、自然環境保全（河畔林や水質）の必要性を知った。



生き物調査を完了した班ごとに、水槽・トレイからバケツに移し、流れ川橋から採集した元の市野川に戻した。元気に、大きく育ってまた来年再会できることを祈って「サヨナラ」をしました。

苦労した点・反省点

学習支援の対象として、四季の河川風景、川と古城の関わりを教材としたり、流れ川橋の環境整備（美化活動）などを進めていきたい。

また、河川管理者には、生活・通学利用する市民側の立場から、短期的な親水護岸を提案していきたい。

環境アドバイザーの方から、簡単なバックテストによる水質試験の実習が行なわれました。班の代表者が、みんなの前に出て、先生も加わって、市野川の水質（水温・COD、NO2-Nなど）を測定しました。



都心部水辺の水生物（外来魚含む）調査



活動日：H22 5/8 ～ H23 1/30

参加者：一般

人数：35人

NPO 法人 武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会

代表：橋本孝一 担当：前田研二郎

<http://www.mecc.or.jp>

mi1234toi@yahoo.co.jp

活動の目的

近年、都市部の河川、湖沼、池などの水辺は、水質や周辺環境の変化によって水生物の生態系に変化が生じている。

既存水生物生態の状況や外来水生物の侵入等を施設や場をあまり損傷しない形式（釣りや小型のカゴ網等）で定点観測的に調査とそのトレンドを分析して望ましい水辺のあり方に関する基礎的データを得ようとするものである。

対象地点は、都心部の神田川、日本橋川、小名木川等と周辺の水辺。



佃島。大川橋リバーシティーの横に昔ながらの街並みが風情のある景色となっている。

活動の内容

周辺の環境を損傷しない方法ということで、エサ釣りと小型のカゴ網を主体として生息調査を実施した。

調査地点は、神田川、日本橋川、小名木川、隅田川（荒川）、月島川、新江戸川公園、外濠（新見附濠、牛込濠）、朝潮運河、佃島、東京湾（お台場）等の都心部の水辺で実施した。

釣りは、陸上から延べ竿、又は投げ竿にて、ミミズ・アオイソ等の動物の生きエサを使用して、目視と釣りによる生息状況を行った。

活動の効果

都心部の河川・水辺環境は、水質の改善等により水生動物等が蘇ってきた感じがする。一方で湖沼や池などではブルーギルやブラックバス等の外来魚が増殖し、既存の水生物生態系を脅かしている。

具体的効果としては、都心部の水辺空間を活用した子ども、大人のための自然体験の場を提供できた。特に小名木川（横十間川等）の江東内部河川は、ハゼ等の生息数が多く、テラスも整備されていて格好の環境教育の場に使える。

外来魚のブルーギルは、駆除を必要としている特定外来生物であるが、子どもや初心者の釣り等の野外体験には良い材料として使える。



隅田川からの水門を通過して佃島に入り込んだたくさんのハゼが岸壁にへばりつくようにいた。目の前にエサを落とすとすぐに釣れる。



小名木川。ハゼ 10cm



神田川に隣接した新江戸川公園での外来種調査。
ブルーギル釣果＝55匹（4cm～17cm）

苦労した点・反省点

都心部の河川・湖沼・池等の水辺環境は、貴重な自然環境であり、野外体験や環境教育の場として保全・育成して行く必要がある。同時に市民の憩い、触れ合いの場としても有効に活用できるように水生動物等の継続的な定点観測調査をしたい。

水路の生き物しらべ in 矢川



活動日：H22 9 月 18 日（土）
参加者：小・大学生、一般
人 数：33 人

南白糸台小学校せせらぎ広場運営協議会

代表：大間努

 <http://genki365.net/gnkf/mypage/index.php?gid=G0000121>

 guccioma@yahoo.co.jp

活動の目的

当小学校の北川にある「ハケ」と呼ばれる段丘の下には、昭和 30 年頃まで豊かな湧水が湧き出ており、ワサビ栽培や稲作、サカナの養殖に利用されていました。今回訪れる、矢川地区は、当時の様子を残す地域であり、用水路と湧水が交わる場所に、どのような生き物が生息していたのか？を学習します。昨年に引き続き調査をすることで、絶滅危惧種の生息の様子や外来種の生息状況などを調査し、参加者達の地域への環境保全意識を高めるものとする。



用水路で集合写真

活動の内容

小学校へ集合後、マイクロバスにて現地へ移動しました。車中にて、当日資料をもとに多摩地区の段丘と湧水に関して、また、段丘の積極的な保全が湧水を枯らさずに残していること、行政の対応などについて話し合いました。現地では、湧水の源流を見学し、用水路（多摩川から取水）と湧水路の合流地点で生き物調べを行いました。

参加者は、一人ずつ手網を使用したり、地元川漁師さんから投網の指導を受けながら調査を行い、調査結果として、用水路では、オイカワ、カワムツ、カマツカ、モツゴなど、湧水路では、ホトケドジョウ、ドジョウ、アブラハヤ、ヌカエビ、タモロコなどを捕獲しました。

昨年の調査結果と同様の結果から、環境はよい状態で保全されていることが確認されました。

活動の効果

参加者たちには、子どもたちが通う地元の小学校のすぐ際に、今回訪れた場所と同じような湧水が流れる水路が存在していたことや、その水路に絶滅危惧種とされているような生き物が生息していることが大きな関心事となっていました。

また、地下水（雨水）の保全が環境への配慮につながることや、生態系を壊す外来種の存在（ザリガニなど）を知ることで、日常的な環境や生き物との対応の仕方について、また学校ビオトープの意義を再認識することが出来ました。



農工大講師より生き物について説明を受けました。



投網班は川漁師さんの指導でチャレンジ

苦労した点・反省点

今夏は猛暑の影響で、実施日の選定に苦労しました。多摩川からの取水が停止になる前に出かけることが出来、良かったと思います。日程を含め、さらなる参加人数の増加や活動場所の選定など取り組んでいく必要があると考えます。



用水路で捕獲した生き物
オイカワ、カワムツ、カマツカ、モツゴ

多摩川 ～川流れ体験～



活動日：H22 7月16日
参加者：小学生、一般
人数：100人

狛江市立狛江第六小学校

代表：森永ひさぎ 担当：春田愛子

活動の目的

- ★ 多摩川に近接する学校であるので、川辺で安全に過ごすために必要なこと、また、もし川に落ちてしまった場合の対処法について学ぶことを目的とした。
- ★ 川辺は楽しいことだけでなく、危険があること、命を守るために必要なことをきちんと知るために、実際に川で流される、服を着たままで行うということを行った。



活動の内容

- (1) 川辺の様子、川辺に生きる生き物についてまず知る（水網で生き物をとってみせる）。
- (2) 川の様子、川に流されたらどうなるのかと云うことの話を知る。
- (3) 川に入り、安全に流される姿勢とその理由を知る。
- (4) 川に流され、実際に流される体験をする。
- (5) 片づけをし、川辺での過ごし方などの話を聞く。

活動の効果

- ★ 川辺での安全な過ごし方、また安全な流され方を知ることができた。
- ★ 川の流れの速さ、川の中に危険なものがあることなどを知り、川が楽しいものだけではなく、危険な場所にもなるということを子どもたちと再確認できた。



学校からライフジャケットを着て多摩川へ行きました。ライフジャケットを着て、子どもたちもかなりその気になっていました。



苦労した点・反省点

川辺での遊び方などを川流れの後や前に紹介していき、川辺の全体の過ごし方という流れもしていきたい。



最後の流される時には、手を動かして川辺に近づいていくようにして行きました。川に流された時の対処法を学びました。

川を中心に親子で参加する自然体験活動等



活動日：H22 9月22日
参加者：小中高生、一般

川と水辺を楽しむプロジェクト

代表：佐藤英雄

✉ amayachi19@ybb.ne.jp

活動の目的

東京の空は排ガス規制で随分ときれいになったが、水や川はまだ見捨てられたまま、あまり改善されていない。川が見られていないからではないか—もっと川を、水を身近なものとして行こう、とまちづくりの一貫として始めた川遊び。それを親子で一緒に参加する体験活動シリーズに拡大。「自然共生」という視点を加えて、身近なところでも楽しめるように工夫してきた。

川が都会っ子にとって眺めることしかできない存在から、活動を通して遊ぶ対象として楽しさを伝えていくのが狙いである。

川の中から見た景観を通してのまちづくりをも提案してきた。川遊びを初めて丸5年、体験者は2千人を超えて、いまや同伴する父母も当たり前のように川の中に入り、一緒に遊ぶようになってきた。



石神井川の9地点で水質調査を開始。
6月の全国一斉川の水質調査を機に、メンバーの手で
偶数月の土曜日午前中に調査を始めた。
石神井川の上流・中流・下流域で調査実施中。

活動の内容

東京23区内でも、身近なところに自然がいっぱいあることを遊びを通じて再発見することも私たちの狙いである。遊びを通じて地域を再発見して欲しい。川の河床を3mも掘削する大工事の中で蛇行する川、川原に草が繁茂する川づくりを積極的に取り組んできた—日本河川協会河川功労賞を受賞したのも、川遊びだけでなく、川づくりへの関わりが評価されたからだ。

掘削して深くなった川を利用して、21年からライフジャケット着用の「川流れ」を楽しんでいる。また陸では、木登りや畑作業に挑戦。体験を通じての「五感（触覚・視覚・味覚・聴覚・嗅覚）の発達」も重要なテーマである。地元石神井小学校の要請を受けて川についての出前講座を行う。石神井川の水質調査を開始した。

活動の効果

- ① 同伴している大人たちが喜んで川に入るようになってきた。川の見直しが始まっている。
- ② 川に捨てられるビニール類が年目に比べて激減してきている。
- ③ 川のジャブジャブ歩きで、川原の石が動くこと、水中の石の生物がいることを体験できた。
- ④ 自然と人間が共生関係にあること、生物多様性が理解しやすくなってきた。
- ⑤ 行政で現場の人たちの理解が進んできた。一方、縁のない部署は相変わらず冷たいまま。
- ⑥ 22年度は天候のこともあり、計画した8件中、6件に留まってしまった。



石神井小学校の要請を受けて出前講座を行う。
総合学習の時間のスタートとして、5年生
3クラスに対して石神井の話をいろいろと行った。

苦労した点・反省点

- ① 参加者のリピーター率が増えてきているが、参加者は一般公募に拘わってきた。
- ② 川遊び関連の指導者が増えないことが悩みである。アシスタントは若干いるが、責任者となる人材が得られない。このままでは先細り状態・・・、若い人材がほしい。



少年石神井川探検隊—ライフジャケットを着用して
石神井川の中流域で“川流れ”を楽しむ。川を蛇行
させ、河床を掘り上げて深くなった場所で遊ぶ。

環境調査と環境整備を通じて女池を学び直す



活動日：H22 7月24日、8月8日

参加者：一般

人数：52人

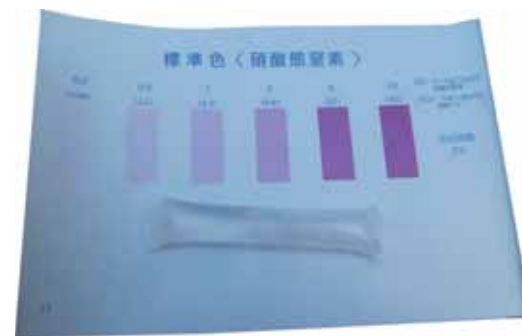
塩谷分校

代表：友野正人 担当：渡邊敬逸
 ✉ higasiyama-r@city.ojiya.niigata.jp

活動の目的

本活動の目的は、新潟県小千谷市塩谷地内にある女池について学び直すことにある。これまで、塩谷分校では、集落内外の有志を募り、中越地震以降に繁茂した水生植物を部分的に駆除する環境整備を女池にて行ってきた。ただ、これは道普請や側溝浚いのような日常的な集落維持活動の域を出ないものであり、塩谷分校として、この環境整備活動を開催する明確な目的があるわけではなかった。

そこで、今年度より、塩谷分校の設立趣旨である「集落外部からの参加者を迎えた『外からの視点』と塩谷住民の『内からの視点』を交えながら、参加者が塩谷を学び直す」という視点に立ち戻り、この環境整備を「女池について学び直す」活動として再定置する。



女池水質調査

活動の内容

- ★ 平成22年7月24日（土）9時より24名の参加者を得て「女池環境観察会」を開催した。観察地点は、女池周辺の小川と女池の2地点とし、各地点にて生物調査と水質調査を行った。午後は、室内にて生物の同定や水質の検討などを行い、ワークショップ形式で、観察結果のまとめと提言発表を行った。
- ★ 平成22年8月8日（日）14時より28名の参加者を得て「女池環境整備会」を開催し、ミツガシワの繁茂が顕著な女池北岸を中心に、参加者が協力してミツガシワを除去した。なお、除去したミツガシワの一部を乾燥し、後日の「ミツガシワ茶会」に備えたが、試飲の結果、泥の味が強く飲用に適さないとの判断から、同会の開催を見合わせることにした。

活動の効果

参加者と地域住民に対する効果は、女池周辺とその環境について深い知見を得られたという点で共通するものである。参加者の多くは、これまで塩谷分校の活動を通じて塩谷集落に馴染みを持っていたが、女池については「ミツガシワが生えている池」程度の知見しか無かった。彼らは、地域住民との共同作業を通じて、女池の状況についてゼロから学ぶ機会を得られた。

また、参加者の言動や観察結果は、地域住民に内在化されている女池の知識を刺激し、その呼び起こしや新たな視角の提供に貢献した。こうした効果は、全体として塩谷分校の活動趣旨である「塩谷の学び直し」に合致するものであり、今後の活動の弾みになると確信している。



ミツガシワ伐採中

苦勞した点・反省点

一連のイベントの中で最もユニークな「ミツガシワ茶会」を開催できなかったことは残念だった。今後もユニークなイベントを織り込みながら、女池に関わる一連の活動を塩谷分校の柱として継続させていきたい。



調査結果と提言の発表



平成22年度 河北潟自然学校と自然観察会



活動日：H22 6月～12月計7回
(いずれも日曜日)
参加者：一般
人数：75人

NPO 法人 河北潟湖沼研究所

代表：高橋久

<http://kahokugata.sakura.ne.jp/>
info@kahokugata.sakura.ne.jp

活動の目的

これまで河北潟の環境保全に取り組む人材の育成のため、「河北潟自然保護学校」と称して、継続的に専門家による基礎的内容の講義と野外実習を行ってきた。また、年6回の「河北潟自然観察会」を行っており、2009年までに69回を実施してきた。いずれも対象は、主に河北潟地域に在住する小中学生以上の住民とし広く参加を募っている。

2010年度の河北潟自然保護学校では、学習のためのテキストブックを配布して、今後自らが自然観察をおこなうときにも参考となるものが手に残るように工夫した。地元町内会と協力体制をとる追加講座を計画し、地域の人々が地域の生物への興味を深める機会とした。



第2回河北潟自然保護学校（10/17）
野外に出て実習している風景。
ここでは、希少植物のアサザの群落に侵入したホテイアオイを
採集している。外来種について学習した。

活動の内容

自然保護学校は河北潟の水辺の動植物についての3回の講座を計画した。水辺の野鳥、水生植物、水生動物の専門家がそれぞれの分野の生物調査法と分類学講義、現地実習を行った。

また石川県ネイチャーゲーム協会の協力で、各回に水辺と親しむネイチャーゲームを実施した。それぞれの講座では、テキストとしてフィールド図鑑等を配布して、最初に生物学の座学を行い基礎知識とした上で、野外において観察実習を行った。

また河北潟縁の八田町会におけるハツタミミズの保全活動についての追加講座を実施した。ここでは主にハツタミミズ保全のために造成した水辺ビオトープにおける活動について勉強した。自然観察会は期間内に4回実施した。

活動の効果

フィールド図鑑として使えるテキストを使用したことはたいへん好評であり、はじめてこうした講座に参加した人には、生物を身近に感じる上でとても効果があったと思われる。

また生物への理解を深める上でも効果があったものと思われる、これまでより生物へ興味を持つ人が多かった。ネイチャーゲームをはじめて体験する人もいて、自然への観察眼を養ったり生物の習性を理解する上での良い訓練になった。

地域の町会とのコラボレーションが図れたことにより、これまでにこうした活動に参加してこなかった青年団や農家などの層が参加するなど、新しい展開となった。地域の希少生物保全への新たな転機ともなった。



第3回河北潟自然保護学校（10/31）
実際に生の生物をテキストの図鑑の説明を比較してみている。
同定のコツ、特徴のとらえ方などを学習した。



第4回河北潟自然保護学校（特別編）（11/23）
八田地区の若手の参加者。この地区の年配者にはなじみの
深い生き物だが、若者の中には初めて見る人もいた。

苦労した点・反省点

チラシの配布等による宣伝を重視したが、参加者を増やすのに苦労した。全般的に若い人の参加が少なかった。

一方で町会との連携はうまくいったことから、今後はこうした地域組織との連携を積極的に図っていききたい。



豊かな湧水を活かしたまちづくり



活動日：H22 6/26, 7/3, 8/22
参加者：小中学生、一般
人数：103人（他会員延 30名）

活動の内容

1. 観察会の実施
2回の観察会を実施した。宣伝等が不足し、参加人数はあまり多くなかったものの、参加者からは毎年実施して、いろんな場所の川の姿を知りたい、という要望も得られた。
2. 「川の自然と文化」講演会の開催
市中心より離れた場所での開催であったが、サケが身近な場所まで来ていることを初めて知った方、長野県水産試験場での取り組みを紹介していただいたことで、充実した内容となった（冊子にまとめる予定）



親子を対象にした水生昆虫観察会。35名の参加。参加者からは毎年参加したい希望も寄せられた。

活動の効果

身近な川の姿について、昔のすがた、現在のすがたの一端を紹介できたと思う。このことにより、さらに見学箇所を増やし、その場でよいところ、悪いところの意見を出し合い、整理していく活動に参加していただく方、身近な川を意識してみたい方を増やすことができたのではないかと考えている。



川の自然と文化講演会（信州大学にて）
「安曇野の魚と人との関わり」と題し、2名の講師による話題提供。参加者 48名。



伊織の井戸湧水路



水辺観察会

川の自然と文化研究所

代表：吉田利男 担当：松井一晃
<http://www.srnkf.org>

活動の目的

1. 親子を対象とした湧水・水辺観察会の実施
湧水地・身近な川をめぐり、先生方の指導により、生物観察会・水質調査を実施する。この体験を通じて、湧水の果たす役割と都市河川の今後の姿について、みんなで議論し理解を深める。
2. 一般市民を対象に、「川の自然と文化講演会」を開催
松本・安曇野盆地の河川に生息する魚類等の変遷と人との関わりについて、かつてのサケ遡上と生活、元長野県水産試験場の方の講演から、地域の川の姿について学習し、関心を持ってもらう。



ナガエミクリ @ 伊勢町用水

苦労した点・反省点

まちの中で、水辺の果たす役割をさらにみんなで考えていけるような活動を展開したい。できれば、地元の方々を中心に足下からの地道な活動へ結びつけられる活動としていきたい。

親子で木曽川最上流と下流の自然観察を行う



活動日：H22 8/29, 11/20

参加者：小中学生、一般

人数：各回 43 名

NPO 法人 木曽川・水の始発駅

代表：沢頭修自 担当：柳川浩司

<http://www.482eki.com>

info@482eki.com

活動の目的

木曽川源流の木祖村にある木祖小学校の児童・父母に、生命の源である「水・川・森」を学習・体験する機会を設け、水をめぐる自然の仕組みを体感し、自然環境保全の大切さを理解するとともに、活動を通して親子の絆を深めることを目的としている。

第1回目に、木曽川最上流で水質・生物・魚観察をした子ども達に、第2回目には木曽川下流域（河口）へのバスハイクを行い、下流平野部の自然・生活の様子を見学して視野を広げながら、自分達の地域の特徴を自覚させる。

木曽三川公園内の輪中地帯の家屋「水屋」の仕組みに興味深く聞く子ども達。地元のボランティアの方による下流の生活の様子を聞いて、自然環境の違いで、暮らし方が自分達の村と全く違うことを理解した。



活動の内容

第1回目の水をめぐる自然の仕組みを知る内容として、木曽川源流で水質検査・水生生物観察、木曽川上流の味噌川に生息するヤマトイワナを探す活動を行った。水質の指標となる水生生物の観察やハコネサンショウウオの発見で、山から発するきれいな水を自覚した。

第2回目の木曽川下流域の見学では、木曽川河畔の犬山城、一宮博物館の「木曽川をめぐると文化」展を見学し、木曽三川公園では輪中地域の生活を学習した後、木曽川河口を經由して帰った。二回の活動で親子の触れ合いを深めながら、木曽川の源流から河口までを見学した。



一宮博物館で「木曽川をめぐると文化」展の解説を非常に興味を持って見学する父母たち。今回のような自然観察会や体験を、親子でできる企画を大変喜び、「毎年やってほしい」という声が聞かれた。

活動の効果

山村の子でも川遊びの経験が少なくなっている昨今、川の源流域に行き水の中で自然観察をしたり川遊びをしたりしたことで、川に馴染んだ様子だった。この経験を通して多くの子が、いろいろな水生生物が生きている源流の自然の仕組みと大切さが自覚できた。

下流域の旅では、上流では想像できない広さ・水量の木曽川を見て、実感として木曽川の地理的な広がりや下流域の様子を理解し、改めて水を生み出す上流部の山や森・自分たちの村の役割を感じることができた。初めて木曽川源流や下流まで行った父母も多く、子ども以上に感動し熱心に学習する父母もいて、「このような親子で触れ合いながら行う地域の学習を毎年やってほしい」と言っていた。



苦労した点・反省点

第一回目は悪天候のため延期した。自然相手のことで天候判断や延期した後の期日設定など運営上難しさもあったが、「毎年やってほしい」という声もあり、地域の子どものために、また実施したい行事である。

木曽川下流木曽三川公園で、高さ6.5メートルの展望タワーに上り、川幅も広くなりゆったりと流れる木曽川に興味深く眺める子ども達。上流と下流で川の様子が大きく変わることを、肌で感じ取る。

里山地域の女鳥羽川で動植物を調べる



活動日：H22 6月～H23 1月
参加者：大学生、一般
人数：96人

女鳥羽川のホタルの里を守る会

代表：小池繁男 担当：安藤真后

活動の目的

調査地の川は、草刈りや間伐をしている所もあれば、手がとどかずに木の繁っている所もある。また、川に山がせまっている所もあれば、もう片方で田畑と接していたりと場所のちがいで多少植生が変わり、それを利用する動物もいろんなものがある。

そこで、従来のホタル調査に加えて、他の昆虫や植物、野鳥も調べてみようとなった。異分野の専門家が講師として参加し、お互いの交流から発見することがあれば、それも有意義と考えた。

地形と植物と動物の関係を見て、人のかかわり方、管理の姿勢を問い直し、市民の教育的資源としての保全の仕方を考えたい。



クルマミヒラタハムシ



オトシブミ



クスサンのさなぎ（天蚕の仲間）
幼虫は白髪太夫（シラガダユウ）とこの地方では呼ぶ。

活動の内容

場所は、松本市郊外にある、ゲンジボタルの名所であり、ホタルの減少をなんとかくい止めようと、私たちは活動をしてきた。したがって、夏場は例年通りにホタルの観察を中心に活動した。

ホタル観察は、地元の農業者の組合、近くの温泉地でホタルのビオトープを作っている会、信州大学理学部の先生と学生（昆虫）、そして大学のサークル、環境市民グループの6者が加わってもらって、ホタル以外の生きものを調べた。冬には地元に住む人にアンケートで昔の女鳥羽川の様子についてたずねた。



女鳥羽川のゲンジボタルが最も多く発生する洞橋の下流側

活動の効果

ゲンジボタルは発生数が大変増えて、地元の人たちと共に喜んだ。私たちは無作為を基本姿勢としているので、川をいじったり、養殖したりはしないが、カワニナの安定したすみ場所を見つけ、そこに餌のキュウリなどを与えて増やした。

その結果、ゲンジボタルが減少から増加に移った。他方、河畔林のあつかいについては、地元の人との意見のちがいもある。町会の人たちは、川は水を流す所なので立木はいらないと言い、私たちは河畔林をなくしてしまえば、それに依存する動物たちを追いつけることになるかと心配する。その解決のためにも私たちの調査活動が必要であると考えている。



串で止めたキュウリを食べるカワニナ。裏側にはびっしりと群がっている。

苦労した点・反省点

調査対象を広げたため、集約が困難となり、十分なまとめができなかった。各講師のまとめ文も遅れている。4月に公開ミーティングを開催し、その場でまとめを課したい。

尚、調査は次年度も継続して行い、資料の充実を図る。



山崎川生き物調査と在来種カメの住民票づくり



活動日：H22 6月6～8日
参加者：小中高大学生、一般
人数：延べ180人

山崎川グリーンアップ

代表：大矢美紀

<http://www1.m1.mediacat.ne.jp/a-ohya/>

a-ohya@sc.starcats.ne.jp

活動の目的

都市河川である山崎川ではサイズの大きい放流されたコイと外来種のミシシippieアカミミガメばかりが目立ちます。多くの人がそれを見て、山崎川には生き物がたくさんいると思っていますが、実はそれらのために、昔からこの川にいる在来種の小さな生き物は数を減らしています。

その事実を一人でも多くの人に伝え、この川が本来どのような姿であるべきかを考えてもらうことが、この活動のねらいです。また、これ以上の外来種などの移入を食い止めることも目的としています。



親水公園でもガサガサ。
今年は源流からの通水が完全にストップしており、水量が少ないです。例年多く見られるオイカワも1匹だけしか獲れませんでした。そのかわり、カマツカが2匹見つかりました。この地域では初めてです。

活動の内容

第1日目の夕方から夜にかけて、9人で3箇所にカメ罠と網をかけました。

2日目の午前中の観察会では、集合してすぐ、カメ罠を7つと網を仕掛けた左右田橋上流に行き、罠を引き上げました。イシガメ2、クサガメ5、ミシシippieアカミミガメ5、スッポン1の他、テナガエビ、ブルーギルがとれました。その後、親水公園でタモを使って自由にガサガサを行いました。午後は、その他の場所のカメ罠を回収し、在来種だけにマーキングをし、こどもたちが名前をつけました。

3日目の午後も同様の作業をしました。住民票をつくったあとは、みんなでカメを返してあげました。外来種については、適当な処分をしました。



東山荘で、カメの住民票づくりをしました。
日本カメ自然誌研究会のお兄さんがドリルで甲羅にマーキングをしました。
カメは何十年も生きるといいます。
また、いつか会えるといいね。

活動の効果

山崎川での外来種駆除を念頭においたカメ調査は今年で3年目になります。最初の年はイシガメ1匹だけで、何十匹ものミシシippieアカミミガメがとれましたが、最近は少なくなりました。また、家で飼えなくなったペットを安易に捨てることもなくなってきました。カメに関しては、年々理解が深まっていると感じています。

今年は子どもたちによるカメの住民票づくりを初めて行いましたが、自分のカメの存在を通じ、山崎川の将来を考えてくれるのでは、と期待しています。

初めは、私たちの活動に批判的だったおじいさんたちも、年々理解を示してくれるようになりました。ただ、コイに関してはまだ高いハードルが存在しています。

苦労した点・反省点

今後は、活動の場所を広げ、手つかずの下流部での外来種駆除を考えて行きたいです。今年は山崎川の源流からの通水が、導入管破損のために完全にストップしています。川の様子を観察し続ける必要があります。



左右田橋上流でのカメ罠引き上げ。
ミシシippieアカミミガメ5、イシガメ2、クサガメ5、ニホンスッポン1。
以前はミシシippieばかりでしたが、だいぶ減ってきました。

わくわく ときどき 自然&環境調査隊



活動日：H22 4/24 ~ 12/15
参加者：小学生

TANAKAMI こども環境クラブ

代表：安部尚子

<http://tanakami.jimdo.com/>
sas_tanakami@yahoo.co.jp

活動の目的

- ★ 子どもの遊び場として、「川遊び」を復活させ、自然の中で遊ぶ楽しさ、自然への感性を養いながら、地域の自然に愛着を持てる心を育む。そして、将来河川がどうあったらいいか考えるきっかけを作る。
- ★ 環境調査を通して、河川によって環境が違い、そこに生息する生き物の違いを感性と数値データで把握することのできる能力を養う。
- ★ 自ら調査結果や観察結果をまとめ、発表し他の地域の人々に自然情報として発信する。



7月28日、29日のお泊まりで活動しました。28日は天神川の上流に行き、川遊びをしました。その遊びの中で、課題の「ダムを作ろう」に挑戦しました。色々な形の石を集めて積んだりして水を貯めたりしました。

活動の内容

- ① 天神川、大戸川の生き物調査（主に水生昆虫）や水質調査（流速、透視度、COD パックテスト）を行った。8月は、瀬田川も水質調査を行った。
- ② 田上山の山頂付近にある湿地帯と池の生き物調査を行い、比較を行った。また湿地帯は、トンボの生息種が多いことからトンボ調査も行った。
- ③ 天神川川岸を中心にトンボの生息調査を行った。
- ④ 夏休みに自然体験活動として川遊び（ダムづくり、すいか割り、生き物さがし）を行った。
- ⑤ 体験活動や調査のまとめを地域の文化祭などで展示発表した。

活動の効果

活動に関わる子ども達は、自分達の地域の中で環境調査や自然体験活動を行うことによって、サポーターとなる大人とともに自然に親しみ郷土愛を育ませることができた。

またこれらをまとめ発表を行っていく中で、地域に生息する生き物を好きになることから地域の環境のよい点を確認し、維持していこうという気持ちが確立された。

展示発表する事で地域の人々に情報として発展することができた。



苦勞した点・反省点

自然体験活動が、子ども達の生育の中でどのように表されるか、評価されていない。自然体験活動が子どもにとって無くてはならないものであることを認識し、参加児童を増やすことを目指したい。

また環境調査の結果を地域貢献の一つと捉え、結果の質の保証を考えながら活動を継続していきたい。



6月6日に田んぼの生き物調査をしたときの写真です。午後からぼてじゃこトラストの方たちと一緒に田んぼの水路にいるなまずの赤ちゃんをたくさん捕まえることができました。



川を流れるゴミを使った水辺の環境学習



活動日：H22 7月24日
参加者：幼児、小・高校生、一般
人数：56人

NPO 法人 あいうえお堺

代表：岩野豊治

http://www.geocities.jp/npo_aiueo_sakai/

aiueo-sakai@auone.jp

活動の目的

河川のゴミ拾いをしながら川から流れるゴミの現状を知り、環境や生態系への影響を考える機会とする。また、川を流れるゴミの多くを占めるペットボトルで顕微鏡等を手作りし、それらの機器で自ら水質や生物調査をすることにより川の現状を知ってもらい、生態系や水質などの環境保全の大切さへの理解を促す。



大和川を流れていたゴミの展示とリサイクル後の再資源化物の展示

活動の内容

2010年7月24日に大和川河川敷で開催された「大和川水辺の楽校まつり」にて府立堺工科高校や府立大学の生徒のみなさん、また社会福祉協議会や地元自治会のみなさんと協力し、ペットボトル顕微鏡手作り教室に来られた子どもや保護者のみなさんとともに手作り顕微鏡をつかった水辺の生物調査を行いました。



府大や堺工科高校の生徒のみんなが顕微鏡作りの先生として大活躍！花粉や大和川の葦の繊維を混ぜた紙を見て子ども達も大はしゃぎ！



手作り顕微鏡教室

活動の効果

前日清掃活動をした時に集めた河川のゴミを展示し、その大半を占めるペットボトルが顕微鏡に生まれ変わり、また河川敷に咲いていた花の花粉や魚（コイ）のうろこの年齢を見て、感動してくれた子どもたちがお祭り終了後の清掃活動に率先して参加してくれました。



苦労した点・反省点

これを機に、もっと地域住民のみなさんと協働し、大和川の現状を市民のみなさんに知ってもらい、きれいな「大和川」と言えるよう、小学校等への啓発活動を推進したいと思います。



天竺川たんけん（観察会、試行開放）



活動日：H22 8月1日、8月29日

参加者：小中学生、一般

人数：延べ139人

服部緑地・天竺川周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会

代表：安家周一 担当：廣田学

 <http://tenjikugawa.web.fc2.com/>

活動の目的

- ★ 地域の河川である天竺川で、親子一緒に川の中の自然環境や川の構造についての体験・学習をする。
- ★ 川へ降りて自由に水辺を楽しんでもらえる“試行開放”を行うことで、川との関わり方の機会と方法を広げていく。
- ★ 2回の開催を通して、護岸が切り立って高低差がある為、普段は入ることもできない川に降りることで地域の身近な川としての魅力を感じ、親しみを持てるようにする。

大阪府池田土木事務所職員より
天竺川や川の構造について説明

活動の内容

8月1日は「天竺川たんけんと観察会」と題し、地域に住む親子を対象に実施。川の構造を学習後、護岸が切り立ち高低差がある川に降りて、水生生物などを採取。採取した水生生物は講師から解説。協議会参画の大阪府池田土木の安全管理のもと、地域で自然観察会をしている方を講師に行った。

8月29日は「天竺川の河川開放」と題し、8月1日と同じ場所で自由に水辺で楽しむことができる“河川開放”を試行的に実施。河川開放では、講師や道具類の貸出しはなく、安全管理など最低限の対応のみで、時間中は何度でも川に入れるようにした。

活動当日の様子は「とよなか市民環境展 2010」（12月）などで展示し多くの市民に見て頂いた。

8月1日
天竺川に隣接する「はらっぱ」へ移動し、参加者が採取した水生生物を水槽に集めて、講師から種類や名前などの説明。（水生生物は最後に川へ戻す）

苦労した点・反省点

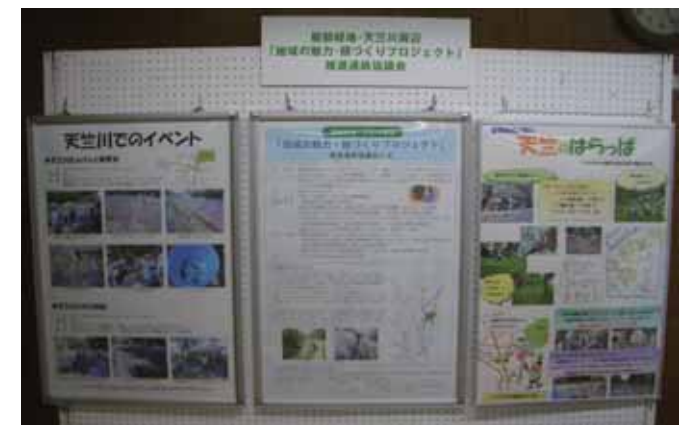
今回の川の試行開放がうまくいったことを踏まえ、今後は夏休みなどを中心に試行開放の回数を増やすことで、地域の川とのふれあう機会の増加、地域の魅力ある場所・地域の顔としての川づくりにつなげていきたい。

8月1日
川の中に入り、親子で川の水生生物を採取

活動の効果

両日のアンケートから、参加者の大半が天竺川へ降りるのが初めてであり、地域の川と関わる機会を作ることができた。また同じく「思ったよりも川がきれいだった」「生き物が多かった」「楽しかった」などの理由から、参加者の半数以上がこれまでの天竺川と比べて「印象が良い方へ変わった」と回答しており、地域の身近な川として魅力を感じたり、親しみを持って頂くことができた。

試行開放では100人近い参加者があり、中には市外からホームページを見ての参加者もいるなど、都市における身近な川の存在の重要性も再認識できた。なお、8月1日の開催で、天竺川で“カマツカ”が初めて確認された（講師談）。

とよなか市民環境展 2010 で、8月の様子をパネル展示（左のパネル）
とよなか市民環境展 2010 は、12月10、11日豊中市立市民会館で開催、
主催はとよなか市民環境会議アジェンダ 21。

水生昆虫のくらしをみんなで調べました



活動日：H22 4月～H23 1月
参加者：小中高大学生、一般
人数：204人

三谷生き物調査隊

代表：稲本雄太

✉ dichorragia_nesimachus@hotmail.com

活動の目的

【市民参加型水生昆虫調査】

近年、絶滅の危機が増大している水生昆虫（特にタガメ、オオコオイムシ、ミズカマキリ、タイコウチ）について、地域住民・地域の研究機関と共同して調査地に生息するのマーキング調査により、個体数および移動距離調査を行い、生活史を明らかにする。

【自然観察会および成果報告会の実施】

調査地として利用している山野草の里において、水生昆虫などを対象とした観察会を実施する（NPO 法人 山野草の里づくりの会と共催）また、調査結果は参加者に報告会を設けて還元し、地域の保全活動の活性化や内容の充実を図る。



子どもたちに調査指導をする橿原市昆虫館の日比学芸員。子どもや保護者にとっても自然や虫に興味をもついい機会となっている。

活動の内容

原則として、4月～11月まで月1回のマーキング調査および、冬季に越冬調査と調査結果の報告会を実施した。調査は主に市民参加型のマーキング調査とし、小学生～年配者まで老若男女を問わず調査に参加できる方法によった。

また、本調査から得られた情報は、NPO 団体の山野草の里づくりの会の活動に反映し、調査地の管理に活かされている。なお、調査で得られた知見は、市民還元の一環として近畿「子どもの水辺」交流会に出展した後（平成23年1月23日実施）橿原市昆虫館に23年3月～5月を目処として展示される予定である。

活動の効果

野外イベント型学習会にしたことで、家族連れなどの幅広い年齢層の参加が得られた。各コーナーでは観察や実験、工作などが体験でき、子どもから大人までが楽しみながら水や生き物について身近なものとして学んでもらうことが出来た。

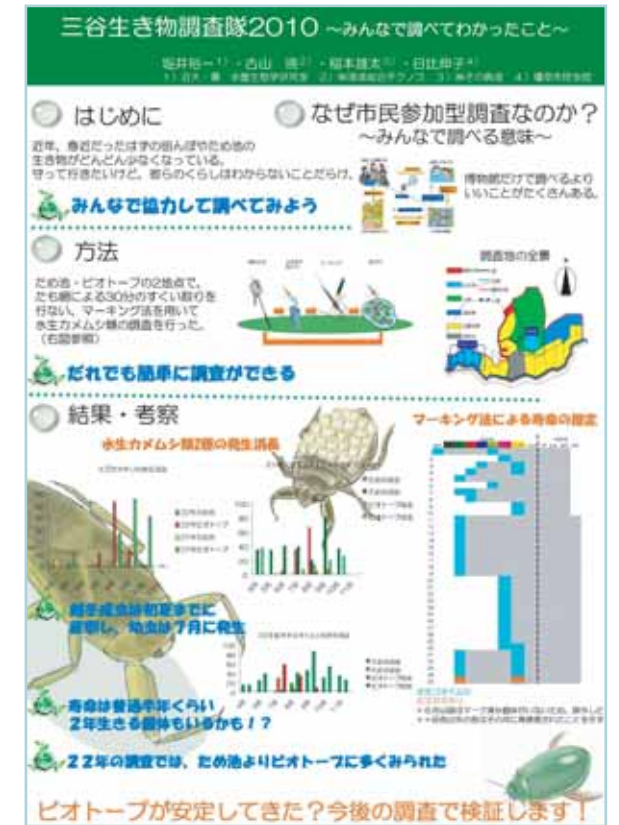
また、知利別川にボートを浮かべるのは初の取り組みで、栈橋を組む苦労はしたが、参加者から好評をいただいた。直接川に触れることで、知利別川の環境への関心を高めることに繋がった。

この学習会は、企画段階から河川管理者の北海道室蘭建設管理部と北海道胆振総合振興局環境生活課・林務課、室蘭工業大学に協力いただき、知利別川を軸とした地域の連携を深めることが出来た。

苦労した点・反省点

調査地である三谷地区は、いわゆる中山間地に該当し、他地域との交流は交通などの制約から都市部と比べると困難である。本調査を通じて年間200名以上の地域住民および他府県民の参加があったことは、生き物に関する関心を育むことができ、自分たちの調査成果を発表することで、努力に対する達成感や自身も身につけることができる。

これらの点から見て、次世代への情操教育の一環としても非常に有益である。また、水生昆虫の生活史（特に寿命など）についても新たな知見を得ることができた。



「こどもの水辺」交流会の発表風景。実際に参加した子どもたちにより発表された本ポスターと、別途添付のポスターは橿原市昆虫館にて展示される予定。

千代川支流東井谷川で環境学習を実施した



活動日：H22 6月24日
参加者：小学生
人数：62人

鳥取市立用瀬小学校

代表：田中精夫 担当：山根順子
http://www.torikyo.ed.jp/motigase-e
motigase-e@mailk.torikyo.ed.jp

活動の目的

小学校低学年児童にとって、活動範囲は学校周辺に限られる。しかしながら、少し活動範囲を広げることにより児童の興味関心を広げ、豊かな感性が養えるを考える。本校に隣接する千代川支流東井谷川「水辺の楽校」をフィールドにして1年生及び2年生児童が生活科学学習で環境学習を実施する。

1年生は、主に水辺周辺の植物調べを行い、観察日記や絵にまとめて記録する。また、米作りやサケの飼育を行う。2年生は川や水辺周辺の生き物について調べ、観察日記や絵にまとめて記録する。

以上の活動を通して、川への興味関心を養うとともに、地域住民に東井谷川の豊かな環境の維持や保護に理解や関心を培う。



約2週間後、サケが孵化、おなかには一杯の栄養をつけて、泳ぐようになってきました。子どもたちは、毎日の成長にわくわく。3月の放流が楽しみです。

活動の内容

1年生は、生活科学学習「おおきなあれ」の単元で6月から、学校及び東井谷川周辺で米作り、花育てと野菜づくりの学習を行った。秋には、「水辺の楽校」で落ち葉や果実の観察を行った。12月からサケの卵の飼育を始め、教室で観察を行った。3月には東井谷川に放流する予定である。

2年生は、生活科学学習「生き物をかおう」の単元で6月から東井谷川周辺で川の生き物を調べ、観察日記や絵にまとめて記録した。観察記録や活動の様子、児童が学習したことを、「学校だより」に掲載し、地域住民に啓発した。

活動の効果

本事業は、小学校低学年児童に河川及び周辺をフィールドにして観察、調査、飼育体験活動を行うことにより、児童に自然環境や川への興味や関心を養うとともに、地域住民に豊かな自然環境の保全や保護に関して理解と関心を培う事業である。地域住民にとってなじみの薄い学習内容であるが、「学校だより」を通して、低学年が川の勉強をしていることを啓発したことにより河川への興味関心を一段と広げることができた。

東井谷川が存在や多様な動植物の存在に気づいてもらえた。また、サケの飼育を小学生がやっていることに驚きと興味をもってもらえた。



10月、6年生と一緒に稲刈りをしました。収穫は、90キロありました。例年になく、猛暑で、イノシシやシカの害もあり、大変でした。



早速、図工の時間に見つけた生き物を描きました。みんながザリガニを描きました。熱心に観察したので細部までよく描くことができました。

苦労した点・反省点

学習中に引率教師が蜂に刺される事態が発生した。十分な安全対策が必要である。

低学年の事業内容を広く周知させていきたい。



9月、夏の生きもの調べをした結果を日記にまとめました。バッタ、コオロギ、チョウチョウ、子どもたちにとって初めての経験でした。

御笠川ウォーキング野鳥観察会 2010



活動日：H22 12/4, H23 1/12～16
参加者：一般
人数：24人

太宰府エコロなネットワーク

代表：高本崇子 担当：武藤博昭
✉ mutou-h@fine.ocn.ne.jp

活動の目的

太宰府市民にとって御笠川は、歴史的にも大変身近な馴染み深い存在であり景観上も重要な構成要素である。

そこには自然な生態系が形成されており、この環境に適応し生きいきと活動している野鳥を観察し、生物の多様性が維持される環境が市民にとっても望ましい自然環境であることを実感すると共に、是までに撮影してきた御笠川の野鳥の生態写真を展示、公開することにより身近な御笠川に多くの種類の野鳥が観察できることを認識して頂き、この素晴らしい自然環境を維持、保全して行く意欲を醸成する。



活動の内容

御笠川の市街区間で自然環境の変化に富んだ約3kmをウォーキングしながら講師の説明を受ける。講師2名（フィールドスコープ持参）を中心に15名程度の2班構成とする。テキストを配布し野鳥の識別に役立てる。講師には野鳥と環境の関連に力点をおいて説明して頂く。安全には特に配慮する。最終地点では鳥合わせを行い観察内容を相互に確認し、意見交換をして終了する。

いきいき情報センターに於いて「デジカメで楽しむ御笠川野鳥の生態写真」60数点を展示公開する。御笠川復活の指標生物としての「カワセミ」を考慮した。年間を通して多種類の野鳥が観察できる自然環境が身近にあり、保存する価値があることを理解して頂く。

活動の効果

今回御笠川の野鳥観察会と野鳥生態写真展を実施して、想像以上の野鳥の飛来があり、それは野鳥にとっても好ましい自然環境が存在することを提言したこと。

その好ましい自然環境も安全の為の河川改修工事との調和なしには維持できないことは今迄の経験が教えており、市民の要望を行政に物申す努力が必要であることが認識された。

写真展を見て、新しい視点で御笠川を実地に観察したい、親しみたいとの声があった。地元のテレビ「ケーブルステーション福岡」に取り上げられ放映された。



鳥合わせ
2人の講師を中心にテキストと対照しながら観察した野鳥を確認



テレビ放映画面
会場 参観者の姿。地元テレビ「ケーブルステーション福岡」の取材があり放映された。

苦労した点・反省点

観察区間を選定し野鳥以外の自然環境も取り上げ総合的な学習の場とする事も考えられる。またもっと詳しい野鳥の学習をとの意見もあった。観察会の回数を増やし定期的に開催する事も要検討事項である。



野鳥生態写真展
ノートを置き感想、意見などを書いてもらう。参観者は御笠川の野鳥の種類の多さに驚く。

みんなに優しい環境に対する取組を考えよう



活動日：H22 11/29 ～ H23 1/31
参加者：小中学生
人数：約 100 人

熊本市立大江小学校

代表：池邊利昭 担当：荒木隆伸

<http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/ooees/index.htm>

ooees@t.kumamoto-kmm.ed.jp

活動の目的

本校は、熊本市の中心部近くにあり、シンボルツリーのエノキをはじめとして、たくさんの木々に囲まれており、子どもたちも一人一人、自分の花を育てている。5年生は総合的な学習の時間の中で、近くを流れる白川に親しむ活動を通して、そこから環境に優しい取り組みを考え、地域に発信していくことを目指している。

今回は、学校の観察池を自分たちの手でビオトープ化することにより、小さな生態系を守るための工夫を出し合わせたい。そこから、今後の自分たちの生活の中で、自分にできる環境にやさしい取り組みへの意欲を高めさせたい。



活動の内容

5年生を対象に、「白川わくわくランド」のスタッフを講師にお招きし、白川に棲む生き物や水質についてのお話を聞いたり、実際に川に入ったりしながら、白川に関心をもった。

そこから、学校の中の水槽の中に、小さな白川を再現し、自然と共生することの大切さについて考えていった。また水俣環境学習と関連させ、「公害の町」から「環境の街」へと変貌を遂げた水俣の人々の取組をヒントに、自分たちにできることを考えさせている。更に学校の観察池の汚れに目を向け、これまで取り組んできた環境にやさしい取組を生かして、観察池をビオトープ化し、白川を再現している。



観察池を自分たちの手で改造するために、生き物たちを学校の水槽やたらいなどに移し、命の尊さを感じた。観察池には、ヘドロが溜まっていて、小魚が死んでおり、墓を作って手を合わせる子どももいた。



観察池を自分たちの手で改造するために、生き物たちを学校の水子どもたちの手作業で、ビオトープの形成に必要な土嚢を運んだ。土嚢は、約200個に及んだ。そして土嚢の上に地域の方々からいただいた毛布を敷き、更に防水シートを貼った。

活動の効果

参加者の意識として、普段慣れ親しんだ観察池を自分たちの手でビオトープ化していく事で、環境への関心は勿論、環境にやさしい取り組みを考え、実践への意欲が高まった。例えば、アクリルたわしを作ったり、廃油石けんを作ったり、米のとぎ汁EM発酵液を作ったりと、環境へのやさしい取り組みに広がりが見えている。

また、ビオトープは学校の玄関に隣接しており、来校者に対して今回の活動を公開してきた。そして、学年通信や学級通信で今回の活動の詳細を伝え、学校の環境への取組の一端を理解していただき、活動にもご協力いただいた。

ビオトープに、水を張り、水中ポンプを沈めた。水中ポンプで水を汲み上げ、ビオトープに流れ込む小さな小川の上流から水を流し、水を循環させている。この水の循環は、子どもたちのアイディアから生まれたものである。

苦労した点・反省点

毎年2月に、学校に地域の方々や保護者をお招きして、学習発表会を行っている。そこで、活動を報告しながら、苦労したことや達成した喜びを発表させたい。そして自分にできる環境にやさしい取り組みを考えさせたい。



友内川ってどんな川なのか調べてみよう！！



活動日：H22 11/29 ～ H23 1/31
参加者：小中学生
人数：約 100 人

NPO 法人 五ヶ瀬川流域ネットワーク

代表：理事長 土井裕子 担当：黒木絵美
<http://www.gokasegawa.com>
info@gokasegawa.com

活動の目的

自分達の住む町に流れる友内川の干潟の生き物、種類、水質などを調査し、発見した事などを模造紙にまとめて発表・展示などを行う事で地元の川に関心を持ってもらう。
 また、リバーパルに干潟遊びなどで訪れる団体（小中学校・幼稚園）や地域の方達などに展示を見てもらいこれを通して友内川の魅力を知ってもらう。



友内川に行き、実際に川の中を観察。
自分の歩いた後をみんな見るので、泥が上がって見えずなかなか苦労していました。

活動の内容

- ★ 干潟の生き物調査 干潟の仕組みを室内で説明した後、実際に干潟に行き生き物を探した。
- ★ 水質調査 延岡河川国道事務所と連携して、水質調査を実施した。
- ★ カヌー体験&水中観察 普段上からしか見る事のない友内川を、カヌーに乗って目線を下げ、川の中から見る事によって新しい発見や自然の偉大さに気付いた。
- ★ 野鳥観察 友内川遊歩道を歩いて、野鳥観察を実施。双眼鏡の使い方や、鳥の名前を学ぶ。
- ★ まとめ 友内川の知ってもらいたい魅力や新しく発見した事などを新聞としてまとめ、発表会を行った。



“友内川ってどんな川”の1回目となる講座は「干潟観察」。干潟の生き物に詳しい先生を呼んで、生き物を探しに干潟へと行きました。



カヌーに乗って目線を下げる事によって友内川の新しい魅力を探す・ハマボウや葦の大きさや普段気付かない所にいろいろな発見がありました。

活動の効果

延岡市の延岡河川国道事務所や野鳥の会、川のインストラクターの方達と連携をとる事で、子ども達が普段接する事のない大人と接する機会を得られた。
 また、今年は水難事故が多発した事もあり、川で遊ぶ際の危険個所の見方や川の流れ方、PFDの着用方法などの時間を取り入れたりしたら、大変好評だった。これから地元の児童館や保育園、小学校を対象にした教室も実施していけたらと思う。

苦労した点・反省点

5回の教室を通して参加出来る子どもが限られ、各回によって参加人数に差が出たことが一番の苦労だった事と共に課題の一つだった。これから、このような地元の川について学べる講座を定期的で開催していければと思う。



作った後は、みんなで発表会。一番伝えたい、友内川の魅力や、初めて知った事、友達に教えてあげたい事など様々な意見が出ました。
みんな、友内川博士になれた様です。

水辺の周辺植物採集と水質調査、生物調査



活動日：H22 5/15, 7/24
参加者：小中学生，一般
人数：5/15 25人 7/24 30人

永田川里山会

代表：未増宗久 担当：久保矢
✉ t_k2395@leo.bbiq.jp

活動の目的

自然体験不足の子どもたちに植物採取や水中の生物を調査することにより、水の大事さや活動の楽しさを味わわせて自然の大切さや水、生物の保全活動につとめさせたい。
また、川の周辺に住む鳥をさがすことにより自然への関心を高め、川をきれいにする心がまえが養われ、清掃の意欲を高める。



ペットボトルのいかだ遊びの様子



濁度計に水を入れ、底の十字形のマークが見えなくなる水深を読みとり、水の透明度を測る。
本来は、垂直にした状態で観察しなければならないが、小さな子は背が届かないので、濁度計を斜めにして観測しているところ。

活動の内容

- ① 植物採集 ② はんごう炊さん ③ 水中生物調査 ⑤ いかだあそび

野鳥の会と協力し、永田川エコクラブのメンバーが保護者同伴で参加した。永田川の支流である慈眼寺川を中心に野鳥観察を実施した。
また、市のエコクラブ等が集まり子どもサミットが行われるので、12月11日(日)に永田川エコクラブも参加した。



活動の効果

春山小学校児童 22 名がエコクラブに入り、エコ活動する中に保護者が加わり、諸活動を行っている。学校長の協力もあり、学校にも大きく貢献しているものと思われる。
野鳥観察では、岩の間を流れる清流を見ながら地域の人も参加し、親もかねては川に関心がないのにとるを探すのにいっしんであった。
サミットでは、市内の子どもたちで組織する団体から 16 チームが参加して、子どもサミット川行われ、市長をはじめマスコミ、テレビ関係者も参加、取材されるので、相当な効果が期待される。



野鳥の会の望遠鏡をのぞいて鳥を観察した。



水質検査の結果
水はきれいであることがわかった。



苦労した点・反省点

今後も自然体験活動を進めて、自然への関心をますます高めたい。野鳥観察を実施した時期は鳥が少ないので 11 月から 2 月くらいがよいとのことであった。
保護者も参加して水辺の活動を行ったので、より一層の協力・組織化を考えたい。

活動写真館



「活動事例」のページで掲載しきれなかった写真を
一気にご紹介します！



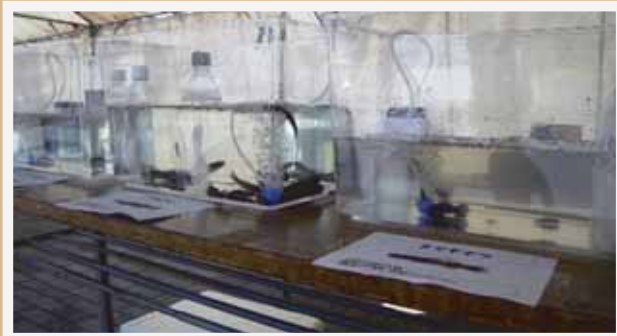
手作りの栈橋を設置しました。



知利別川の現況図と河川改修パースの展示



模型を使って氾濫について勉強します。



朝、採捕した魚を展示しました。



オガクズを
使ってアート工作

NPO 法人
河川環境センター知利別川を愛する会



川の水質検査体験@磐崎小学校



戸草川で採取した水生生物を同定し
ているところ。生徒も大人も興味津々
で見守っている。



調査結果のまとめと川の生物等について解
説をしているところ@磐崎小学校



生活排水が川の水を汚すことの実験と
して、ラーメンのスープをどれくらい
希釈しないと魚が住める程度にならな
いかを体験しているところ。
@夏井小学校



講座のまとめとして水生生物調査や
水質の調査結果などの話をきいてい
るところ@好間第一小学校

米のとぎ汁のCODを測定
@川前小中学校

NPO 法人 いわき環境研究室



調査地点での採水。水源地の清潔な水をビーカーでくみあげている。



各地点で採水した水を測定場所（町公民館）に持ち寄りその後の調査の分担を決めて測定する。



オオマリコケムシが突然発生した用水池（諏訪池）悪臭を放つ汚れた池である。



パックテストで発色させ、比色表（標準色）と対比して濃度を測定する。水質によっては特殊な成分も測定した。



ホタル飼育に使用した水槽。
この場合は、陸生の『クロマドボタル』の飼育なので、内側にプラスチック板を入れ、土や石を入れて飼育した。

保原町環境ワーキンググループ



7月6日（当日）の、会場整備班と安全監視用ゴムボート班の打合せ。手前の改良積み土のうは、低水路の簡易仮設護岸となっている。
水深は、約1.8mにつき、児童が仕掛け網を引き上げる際の、安全確認をおこなった。



校舎内の多目的教室に集合した6年生全員は、再生する会の方から、スライドを使って、市野川の生き物全般についてのお話をしてもらいました。
数名の児童から、感想発表などがありました。



ケヤキ、コナラ、クヌギなどの河畔林が残る蛇行河川には、下流の流れ川橋・松山城跡周辺とは異なる魚類が見られた。
オイカワ、ヌマムツナマズ、カマツカなどが見られ、上流のややきれいな川の生き物を学んだ。

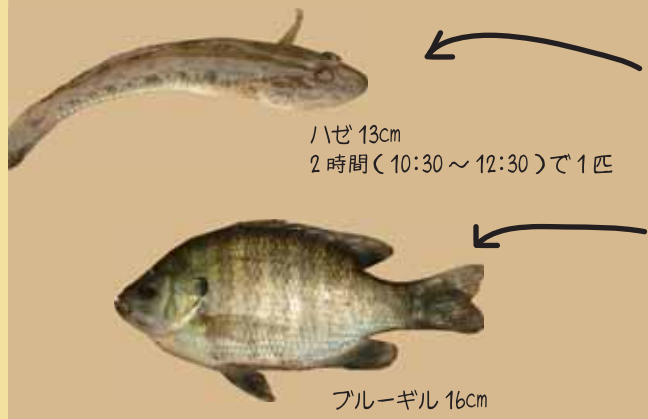


100人の9班から、仕掛け網を引く代表者が、護岸に近づき一斉に活動を開始して、手元に引き上げる。
市野川は、灌漑期につき停滞水域となっており、流速は0.3m/secと非常に遅い。



環境アドバイザーの方からは、吉見百穴より下流では各地で生活排水が入るため、やや汚い川とされる『河川C水系』に分類されている、との講義をうけた。
みんな、川をきれいにするのが大事、と教えていただきました。

松山城跡周辺の市野川を再生する会



隅田川入り口(荒川との分岐点)



小名木川(クローバー橋付近) ハゼ 10cm
40cm 位の深さで魚が見える。



近年ハゼが非常によく釣れるようになった。
しかも安全なのでファミリー向けだ。



投網による調査。
神田川と隅田川の合流地点、柳橋付近。
投網保存会の名人によるあざやかな投入

NPO 法人
武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会



調査開始前に捕獲した生き物を入れ分ける
水槽を示します。



矢川源流見学



源流の上流へと向かいます。



湧水路で捕獲した生き物。
ホトケドジョウ、アブラハヤ、ヌカエビ



南白糸台小学校せせらぎ広場
運営協議会



ガサガサ魚とり。
中流域の菰歩道橋下でジャブジャブと
川の中を歩き、水草をガサガサと足で探って魚とり。
1時間弱でモツゴ、アメリカザリガニなど 130 余匹がとれた。



公園の池にいる冬の水鳥
今年はカモ類の痕りが少なかった。♂♀の見分け方、
種の見分け方を教える。共に真っ黒なカワウとカラ
スが並んで木に止まるおもしろい光景が見られた。



木登り初級編+ロープ遊び。
初めての子どもにもマン・ソー・マンで手取り足取りで、
4mの高さまで全員が登る。木の枝に結んだ8mのター
ザンロープも人気がある。



芋煮会 2010。
川の脇で、練馬の畠でサトイモを掘って調理して
山形風の芋煮を楽しむ。芋煮だけでお腹いっぱい
になる。主役は子どもたちである。

川と水辺を楽しむプロジェクト



環境観察出発前



塩谷川生物調査中



議論のまとめ作成中



ワークショップ中



乾燥用ミツガシワの結束



塩谷分校



第1回河北潟自然保護学校（平成22年10月3日）
大宮川河口から野鳥の観察実習



第2回河北潟自然保護学校（平成22年10月17日）
水生植物の講座実際の植物をみながら、
またテキストを使って解説を聞く。
（左から2人目が講師の永坂正夫氏・金沢星稜大学准教授）



水草のヒシの実を試食しているところ。
水草について多面的な理解を深める。



第3回河北潟自然保護学校（平成22年10月31日）
水生動物について学習。講師は高橋久（理学博士・河北潟湖沼研究所理事長・日本両生類研究会幹事）
スライドを使って説明中。



第4回河北潟自然保護学校（特別編Ⅹ平成22年11月23日）
八田地区の水辺ビオトープにおいてハッタミズ保全
の話を聞く。講師は中村明氏（八田町会長・左から2人目）



第75回河北潟自然観察会（平成22年12月5日）
河北潟の湿地（田んぼ）に集まる野鳥を観察した。ちなみに
第74回自然観察会は、河北潟自然保護学校とジョイントで実施した。

NPO 法人 河北潟湖研究所



たも網で捕まえた水生昆虫を講師に見せて、積極的に
質問する子ども達。地元の『村誌』から採集した資料
を活用してわかりやすく解説もしてもらえた。



川遊びでは男子女子を問わず、子ども同士または親子で
触れあう姿が見られ、川を通して、大変いい触れ合いの
活動となった。



11月20日 第2回目の活動
中流域木曽川河畔にそびえたつ犬山城での集合写真。
後ろの天守閣に登り、大河になっていく木曽川を見下ろしたり、
遠くに見えた木曽御嶽山を眺めたりして歓声を上げる。



源流より下流の河原で、ヤマトイワナを探しながら川遊び
を楽しむ。たも網で手繰ると、石の下からヤマトイワナの
稚魚が見つかり、子どもたちは大喜びで観察した。



一宮博物館で昼食を食べた際に、周りの森の様子と、
8月に行った木曽川源流付近の森の違いを、
木の実などを見せながら解説する講師。



8月29日 第1回目の活動
木曽川源流味噌川のワサビ沢にある
「木曽川源流の碑」前での集合写真。

NPO 法人 木曽川・水の始発駅



石の上に苔がはえている。このような所に、ゲンジボタルの卵が産み付けられる。



岸が湾状にくぼんでいる入り江にはカワニナがいる場合がおおい。



水辺公園の奥の流急。山がせまり、山続きの岩盤が河原に露出している。



水辺公園の一部。信州大学緑山研究室の学生が昆虫を探す。地元の人が立木の間伐をして、林がすっきりしている。手前の土手にはアレチウリが伸びている。



女鳥羽川のホタルの里を守る会



タラップの上下に安全管理のスタッフだけは配置し、参加者の上り下りをサポート



開放中の川の様子（決めた範囲で参加者が自由に川で親しむ）



今回の助成で購入した投網を使って講師がデモンストレーション（左が講師）



天竺川に隣接する『はらっぱ』では同時開催で冒険遊び場一斉開放が実施され、参加者は両方に参加できた。（写真は、昆虫館館長による説明の様子）



服部緑地・天竺川周辺
『地域の魅力・顔づくりプロジェクト』
推進連絡協議会



6月、2年生が虫さがしに出かけました。
東井谷川沿いの水路には、ザリガニがたくさんいました。



2年生は9月にも水辺の森校で虫取りをしました。
水辺にはチョウチョウ、コオロギ、クモなど虫が一杯。
1年生とも、一緒に活動したのもっと、仲良しになりました。



12月、岩美町小田川に遡上してきた
サケの卵を譲り受け、2台の水槽で飼
育を始めました。

鳥取市立用瀬小学校



リーダーによる実施要領、ルートマップ、
テキストなどの説明



ルートマップ
観察と移動にかかるおよその時間を
示し参加者へ配布



観察会
A講師による
野鳥の説明

太宰府エコロなネットワーク



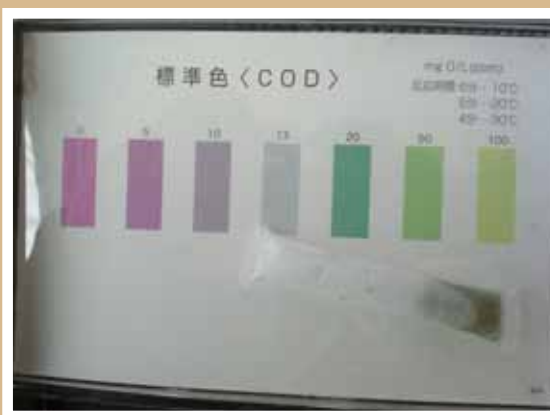
土壌の上から、ビオトープの形成に必要な土を盛って
いった。子どもたちや地域の方々の協力を得ながら、
一輪車で土を運び、ビオトープが次第に形づくられて
いった。



ビオトープ改造計画には、子どもたちは朝のボランテ
ィア活動や昼休みなどの時間なども使って、取り組ん
だ。そして、ビオトープの完成に至った。多くの人の
協力によって、学校のビオトープが完成した。



ビオトープの水は、透視度計にて透明度をはかっていった。
水を張った直後は、7cmだったが、翌日は36cm、翌々
日は56cmと次第に透明度が増していくのが実感できた。
今後はEMぼかし団子などを投入し、更に透明度を上げていきたい。



熊本市立大江小学校



遊歩道にて観察。川の中で魚を探してるサギをみんなじっと追っていました。



パックテストが何色になったか、スタッフが持ってる表を見て、友内川がどのくらいきれいかわかった。



教室開催中に撮った写真や自分で書いたカニや鳥の絵、写真やリバーパルにある資料を使い、自分達だけのオリジナル新聞を作成。

NPO 法人 五ヶ瀬川流域ネットワーク

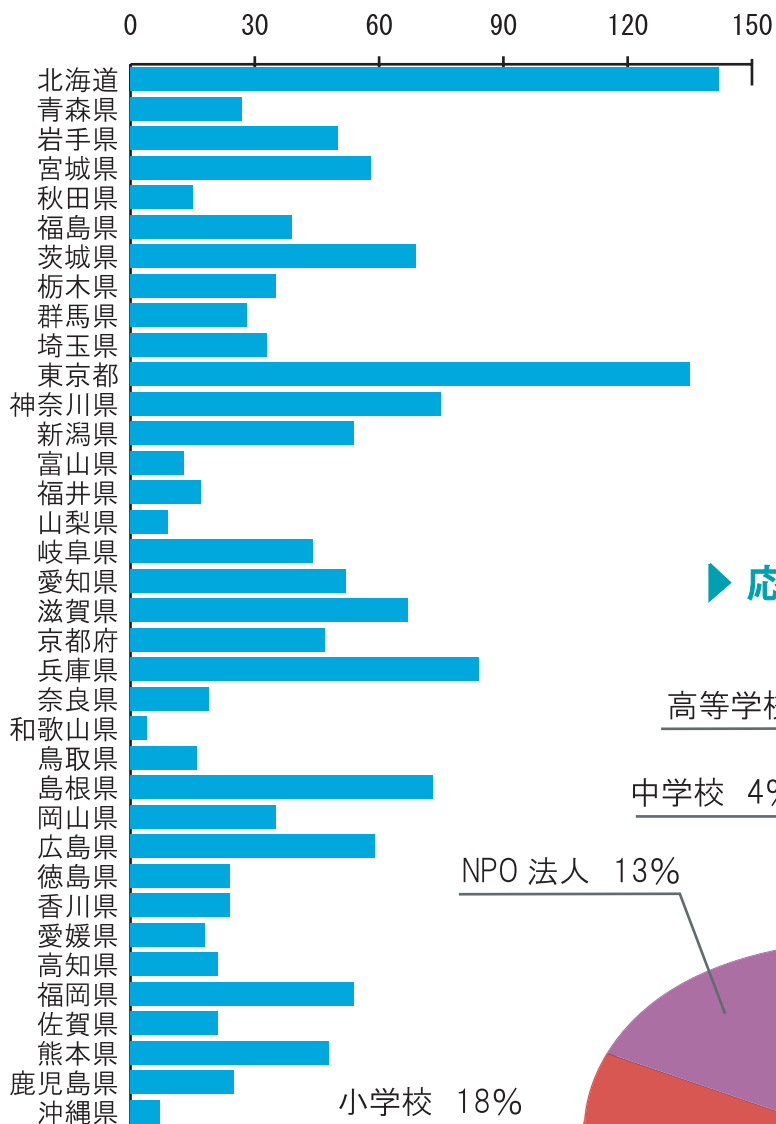


永田川里山会

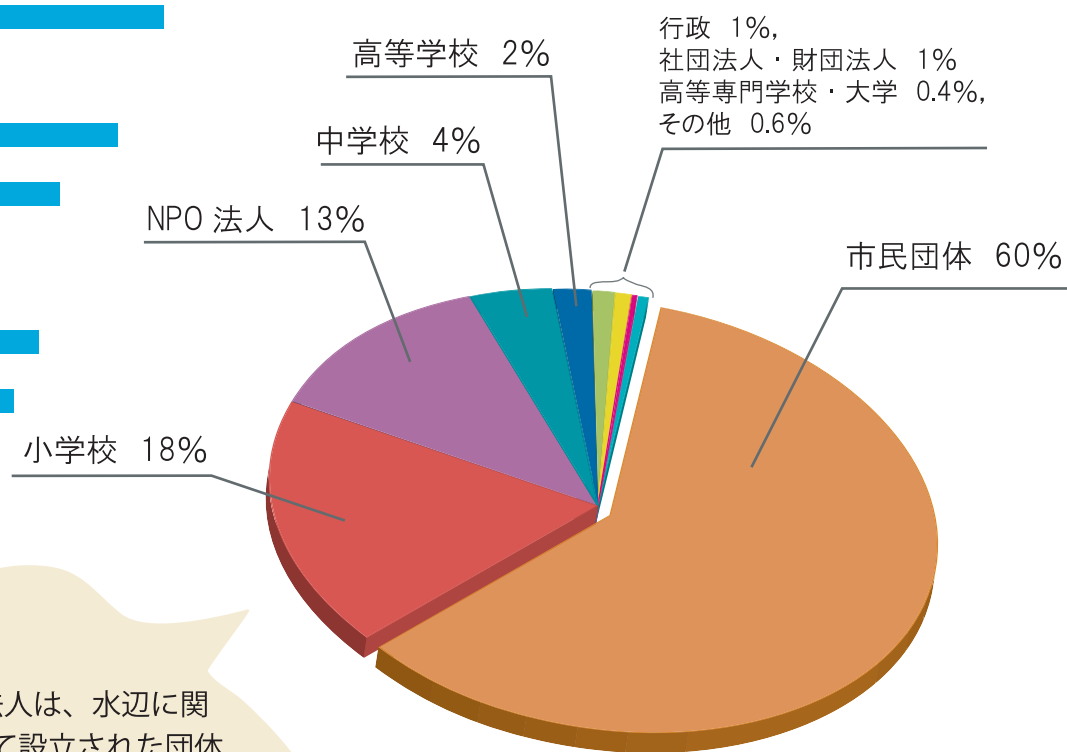
応募団体の概要

平成 11 年度から平成 22 年度に当助成に応募いただいた団体数は、1541 団体です。
これを団体所在地とその種別から整理しました。

▶ 所在地別活動団体数



▶ 応募団体種別



市民団体や NPO 法人は、水辺に関わる活動を目的として設立された団体がほとんどです。

小学校では総合学習として水辺での活動を取り入れていたり、PTA 主催の活動もみられます。

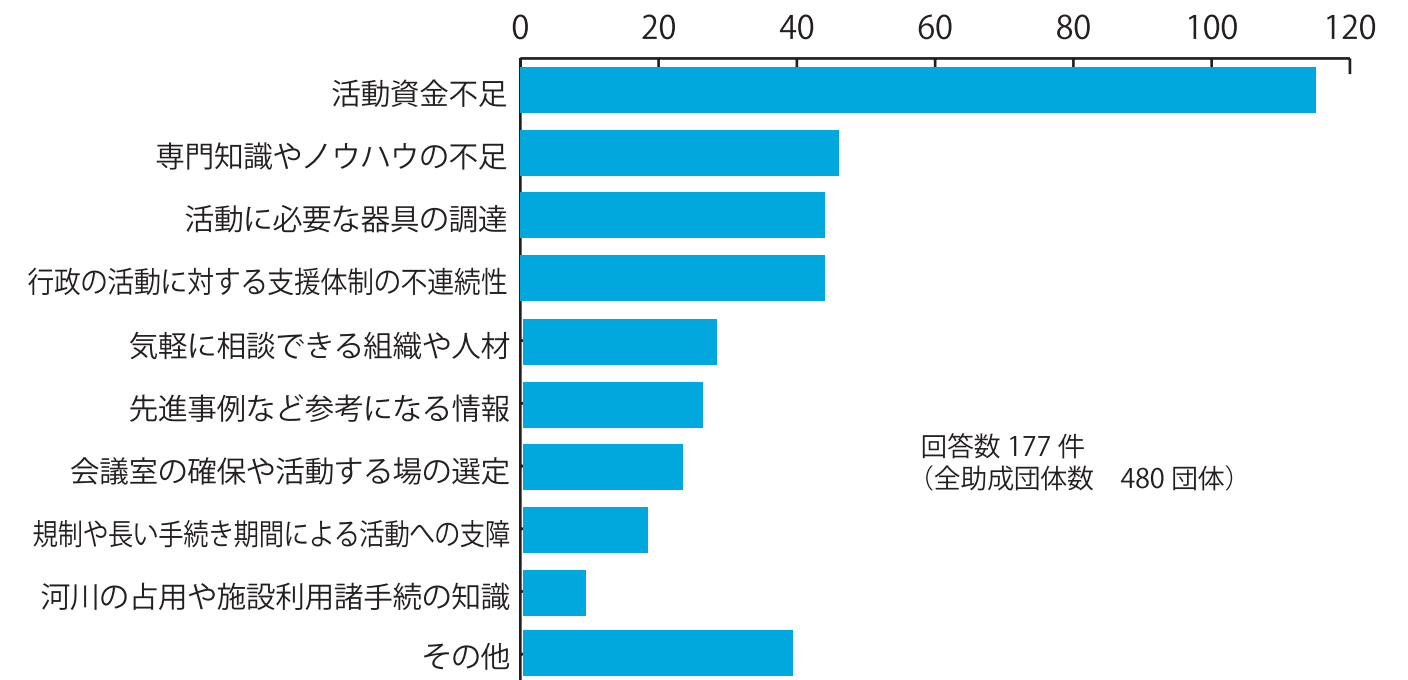
中学校や高校では、生物部や科学部などの部活動で活動が行われているようです。

アンケートまとめ

水辺に関わる活動をしているたくさんの団体がありますが、活動を行うにあたって、また活動を継続するためにどのような問題を抱えているのかアンケートを行いました。

平成 18 年に一斉アンケート調査を行い、平成 11 年度～平成 17 年度の助成対象団体に回答をいただきました。その結果に、平成 18 年度以降の助成対象団体の回答をあわせて整理しました。

▶ 活動団体が抱える問題点



★ 代表的な自由回答

- * 団体の人材不足、高齢化
- * 幅広い野外体験活動を指導できる人材が育たない (いない)
- * 国交省の担当者の転勤が早く、引継ぎがない為、地域住民はもとより、河川に関する団体等との連携が悪い
- * 行政との協働が、今一歩前進してほしい
- * 学校の担当者の転勤にともなう活動の停止
- * 活動参加数の減少
- * 誰に講師を依頼すべきかわからない
- * 同じ活動をしている他団体との横のつながりができる様な取り組みや情報がほしい
- * 川へ行く際の交通手段
- * 子どもの移動手段と活動時間の確保
- * 地域に活動に理想的な場所があるが、進入路、階段等が無い
- * 数年にわたっての助成事業
- * 観察機材が高額
- * 水辺に関わる講演やシンポジウムの地方開催が少ない
- * 不適切な放流などへの対応

これまでの活動団体

団体名は助成当時のものであり、現在の活動の有無を保証するものではありません。

【平成 11 年度】

	団 体 名	活 動 場 所	
1	島松小学校柏木川プロジェクト	北海道	柏木川
2	遠軽町河川愛護少年団	北海道	湧別川
3	十勝拓成湖カヌークラブ	北海道	拓成湖
4	NPO 法人ひたかみ水の里	宮城県	旧北上川
5	広瀬川水辺の楽校の会	宮城県	広瀬川
6	子吉川をきれいにする会	秋田県	子吉川
7	緑のボランティア	埼玉県	見沼代用水、旧芝川、 藤右衛門川、緑川
8	狛江ほたる村	東京都	多摩川
9	第 13 回野川わき水まつり実行委員会	東京都	野川、玉川上水
1 0	都立農産高校生物部	東京都	江戸川、新八水路
1 1	多摩川癒し研究会	東京都	多摩川
1 2	「西暦 2000 年の多摩川を記録する市民運動」実行委員会	東京都・神奈川県	多摩川
1 3	柳とあそぼう引地川実行委員会	神奈川県	引地川
1 4	田富北小学校 PTA・水辺の楽校を考える会	山梨県	釜無川、常永川
1 5	天神川を考える会	岐阜県	天神川
1 6	大垣市立小野小学校	岐阜県	中之江川、加賀野名水公園、 学校内の人工川
1 7	川とまちのフォーラム・京都	京都府	西高瀬川、岩倉川、広沢池
1 8	淀川愛好会	大阪府	摂南大学
1 9	NPO 野生生物を調査研究する会	兵庫県	猪名川
2 0	岡山市立妹尾小学校	岡山県	足守川、妹尾川
2 1	平福小水ネットワーク	岡山県	旭川
2 2	とくしま自然観察の会	徳島県	吉野川
2 3	全国こどもメダカフェスティバル実行委員会	高知県	日下川

【平成 12 年度】

	団 体 名	活 動 場 所	
1	三笠の湖・川・緑を愛する会	北海道	幾春別川
2	水環境ネット磐井川	岩手県	久保川（磐井川支流）
3	川と森のクラブ	岩手県	北上川
4	NPO 法人ひたかみ水の里	宮城県	日向川、北上川
5	E ポート子ども交流会 in セブテ宿実行委員会	宮城県	セブテダム
6	八幡の川を愛する会（河童の会）	山形県	荒瀬川
7	遊佐町立西遊佐小学校	山形県	西通川
8	みんなでつくろう最上川環境マップ実行委員会	山形県	最上川
9	いっぽの会	埼玉県	荒川
1 0	エコシティ志木	埼玉県	柳瀬川
1 1	富士川に清流を取り戻す会	千葉県	富士川
1 2	ちば環境情報センター	千葉県	都川
1 3	ちば・谷津田フォーラム	千葉県	下大和田谷津田
1 4	板橋自然と遊びの会	東京都	荒川
1 5	非営利活動団体東京おもしろ野外学校	東京都	多摩川
1 6	市民ネットワーク・相模川	神奈川県	目久尻川、金目川、相模川
1 7	六日町立六日町小学校	新潟県	魚野川
1 8	多治見自然の会	岐阜県	北小木川、土岐川
1 9	三島ゆうすい会	静岡県	源兵衛川
2 0	三重県民生協伊賀地区環境委員会	三重県	名張川
2 1	伊勢市中央生活学校	三重県	勢田川
2 2	守山市立河西小学校	滋賀県	野洲川
2 3	鴨川を美しくする会	京都府	鴨川
2 4	落合ネイチャー指導者会	岡山県	備中川（旭川支流）
2 5	砂川クリーンクラブ	広島県	芦田川、砂川流域
2 6	満濃町立四条小学校	香川県	土器川（祓川）及びその周辺
2 7	田川未来塾	福岡県	彦山川（遠賀川支流）
2 8	玄海町立玄海小学校	福岡県	神湊の海、釣川及びその支流
2 9	広川「水」の会	福岡県	広川と小椎尾川の合流点付近
3 0	鹿島市源氏ボタル保存会	佐賀県	浜川
3 1	波佐見・緑と水を考える会	長崎県	川棚川
3 2	矢部郷自然観察会	熊本県	五老ヶ滝川（緑川支流）

【平成 13 年度】（１）

	団 体 名	活 動 場 所	
1	真駒内川水辺の楽校	北海道	真駒内川
2	夏井川堤の景観を創る会	岩手県	夏井川
3	くじ・川の会	岩手県	久慈川
4	E ポート子ども交流会 in セケ宿実行委員会	副成県	セケ宿町
5	かむり川・めだかの会	宮城県	七北田川
6	東町立新東小学校	茨城県	霞ヶ浦、横利根川
7	茨城県下妻市立高道祖小学校	茨城県	小貝川
8	茨城町立広浦小学校『広浦探検隊Ⅲ	茨城県	洞沼、洞沼川
9	河内の花マップづくり会	栃木県	谷川流域
10	にのみや河川愛護ボランティアグループ	栃木県	鬼怒川
11	君津市立蔵玉小学校	千葉県	小櫃川
12	ちば環境情報センター	千葉県	都川
13	下平井干潟水辺の楽校	東京都	荒川
14	和泉川・東山の水辺愛護会	神奈川県	和泉川・東山の水辺
15	「生きのこれ川」の応援団	神奈川県	千ノ川
16	生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会	神奈川県	平瀬川支流湧水
17	三条ホテルの会	新潟県	五十嵐川
18	富山県黒部市立若栗小学校	富山県	黒部川
19	長野市立東条小学校	長野県	藤沢川
20	特定非営利活動法人ふじ環境倶楽部	静岡県	田宿川
21	静岡県伊東市立西小学校	静岡県	伊東大川
22	岩倉川の水辺を守る会	愛知県	五条川
23	大津市立雄琴小学校	滋賀県	雄賀川、大正寺川
24	滋賀の淡水生物研究グループ（愛称 Nets）	滋賀県	天神川
25	みのお山自然の会	大阪府	箕面川
26	ねえ、あそぼうよ	兵庫県	逆瀬川
27	子ども生き生きクラブ「週末探検隊」	兵庫県	八木川
28	広島県三次市立川西小学校	広島県	美波羅川
29	「みわ」の水辺を繋ぐ会	広島県	大土川、板木川、吉原川
30	西徳山まちづくりの会川づくり部会「メダカの学校」	山口県	夜市川
31	川と山・ふるさと夢の会	高知県	梅の木川
32	北九州高校理科部（魚部）	福岡県	紫川、遠賀川 他

【平成 13 年度】（２）

	団 体 名	活 動 場 所	
33	やまんたろ・かわんたろの会（球磨川水系ネットワーク）	熊本県	川辺川、球磨川
34	託麻東校区教育環境協議会	熊本県	健軍川
35	佐伯しろやま児童クラブ	大分県	堅田川・大越川

【平成 14 年度】（１）

	団 体 名	活 動 場 所	
1	鵲川・沙流川「交流会」	北海道	鵲川
2	環境学習フォーラム北海道	北海道	精進川
3	特定非営利活動法人 しりべつリバーネット	北海道	尻別川
4	川の体験隊まきいし	宮城県	北上川
5	村田町立村田第二小学校	宮城県	荒川
6	阿賀川・川の達人の会	福島県	阿賀川
7	福島県河沼郡会津坂下町立坂下小学校	福島県	鶴沼川、宮川、阿賀川
8	特定非営利活動法人印旛沼広域環境研究会	千葉県	高崎川、鹿島川、手操川、桑納川
9	特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会	東京都	空堀川
10	府中市立四谷小学校	東京都	多摩川
11	日野市立仲田小学校	東京都	多摩川
12	多摩川癒しの会	東京都	多摩川
13	北区・みずとみどりの夢倶楽部	東京都	荒川
14	小平市立小平第四小学校	東京都	玉川上水
15	風の丘 アフタースクール	神奈川県	道志川
16	加治川ネット21	新潟県	加治川
17	千鳥っ子探検隊	富山県	祖父川、小矢部川
18	このもとカジカ村	福井県	清滝川
19	飯田市立立川路小学校4学年（平成13年度）	長野県	天竜川
20	長野市立東条小学校	長野県	藤沢川
21	信州ふるさと自然体験塾実行委員会	長野県	万古川
22	リバーサイドヒーローズ、さかなの会	岐阜県	土岐川、笠原川
23	浜松市立中ノ町小学校	静岡県	天竜川
24	鴨川を美しくする会	京都府	鴨川
25	梅津まちづくり委員会	京都府	有栖川
26	近木川流域自然大学研究会	大阪府	－
27	石川河川公園自然ゾーンワークショップ	大阪府	石川河川公園

【平成 14 年度】（2）

	団 体 名	活 動 場 所	
2 8	安富町立安富北小学校	兵庫県	林田川
2 9	特定非営利活動法人 こども環境活動支援協会	兵庫県	仁川、広川原
3 0	奈良市立佐保川小学校	奈良県	佐保川
3 1	横田町立馬木小学校	島根県	大馬木川、小馬木川
3 2	三成小学校ＰＴＡ	島根県	斐伊川
3 3	平田市立鰐淵小学校猪目分校	島根県	猪目川
3 4	知的障害者授産施設 のぞみの里	島根県	高津川
3 5	みわの水辺の学校	広島県	江の川、板木川
3 6	財田町自然観察同好会	香川県	財田川
3 7	溪筋地区環境グループ「みずすまし」	愛媛県	－
3 8	父親ネットワーク	福岡県	紫川
3 9	こじいの森・こどもの時間	宮崎県	野々宇都の川

【平成 15 年度】（1）

	団 体 名	活 動 場 所	
1	環境学習フォーラム北海道	北海道	精進川
2	NP0 ひがし大雪自然ガイドセンター	北海道	音更川、居辺川
3	青森県立五所川原農林高等学校	青森県	岩木川
4	特定非営利活動法人 イーハトープリ山水棲生物保存会	岩手県	北小山田地区
5	米沢ホタル愛護会	山形県	大樽川
6	天童市立津山小学校	山形県	倉津川
7	余笹川流域連携ネットワーク	栃木県	余笹川、黒川、三蔵川
8	河内町内自然環境研究会（カジカ研究会）	栃木県	鬼怒川
9	（財）埼玉県生態系保護協会 荒川保全プロジェクトチーム	埼玉県	小畔川、下小畔川 他
1 0	特定非営利活動法人 印旛沼広域環境研究会	千葉県	西印旛沼、北印旛沼、鹿島川 他
1 1	東京都狛江市市立和泉小学校	東京都	多摩川
1 2	特定非営利活動法人空堀川に清流を取り戻す会	東京都	－
1 3	呑川（なみがわ）の会	東京都	呑川
1 4	下平井水辺の楽校	東京都	荒川、下平井干潟
1 5	東京都あきる野市立屋城小学校	東京都	多摩川
1 6	和泉川・東山の水辺愛護会	神奈川県	和泉川、宮沢遊水地周辺
1 7	しぜんの国アフタースクール	神奈川県	道志川
1 8	かわさき水辺の楽校とどろき校	神奈川県・山梨県	小菅川

【平成 15 年度】（2）

	団 体 名	活 動 場 所	
1 9	まちづくり NP0 エイジレスたまご	新潟県	柏崎地区海岸
2 0	新潟大学教育人間科学部附属長岡小学校	新潟県	信濃川、栖吉川
2 1	エコプラザさばえ	福井県	日野川流域
2 2	松尾小学校	長野県	天竜川、松川、毛賀沢川
2 3	長野県上伊那農業高等学校	長野県	天竜川、小沢川、大泉川 他
2 4	女鳥羽川の自然を考える会	長野県	女鳥羽川
2 5	準用河川戸石川（仮称）水辺の楽校推進協議会	岐阜県	戸石川
2 6	富士宮市立井之頭中学校	静岡県	芝川源流「陣馬の滝」周辺
2 7	縄文倶楽部	静岡県	都田川、佐鳴湖
2 8	岩倉の水辺を守る会	愛知県	五条川、矢戸川合
2 9	かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議 「かすがいグリーンストリーム」プロジェクト	愛知県	内津川、庄内川流域
3 0	天白・川辺の楽校	愛知県	天白川
3 1	大津市立雄琴小学校	滋賀県	琵琶湖
3 2	梅津まちづくり委員会	京都府	有栖川
3 3	石川河川公園自然ゾーンワークショップ	大阪府	石川河川公園
3 4	特定非営利活動法人総合教育研究所	奈良県	佐保川
3 5	高津川不思議探検隊	島根県	高津川
3 6	島根県平田市鰐淵小学校猪目分校	島根県	猪目川、猪目海岸
3 7	香川淡水魚研究会	香川県	香東川、土器川
3 8	高松市立一宮小学校	香川県	香東川
3 9	四万十川自然再生協議会 人材育成分科会	高知県	四万十川
4 0	自然と暮らしを考える研究会	佐賀県	厳木川
4 1	佐賀県立厳木高等学校	佐賀県	松浦川、厳木川
4 2	立神峡から始まる環境教育の会	熊本県	氷川

【平成 16 年度】（1）

	団 体 名	活 動 場 所	
1	いしかり KIDS 2 1	北海道	石狩川、茨戸川、知津狩川
2	北海道カワシンジュガイを守る会 夢泉塾	北海道	ピリカフラヌイ川
3	青森県立五所川原農林高等学校	青森県	岩木川支流十川
4	三沢市立根井小学校	青森県	小川原湖、根井湖岸～鶴ヶ崎湖岸
5	盛岡市立杜陵小学校	岩手県	中津川
6	茨城県稲敷郡美浦村立美浦中学校科学部	茨城県	美浦村内蓮田及び水田

【平成 16 年度】（２）

団 体 名		活 動 場 所	
7	余笹川流域ネットワーク	栃木県	余笹川、黒川、三蔵川
8	NP0 法人 箕輪城元気隊	群馬県	白川
9	砂川流域ネットワーク	埼玉県	砂川
1 0	小野川子どもの水辺協会	千葉県	小野川
1 1	柴又エコロジー２０００	東京都	江戸川新八水路周辺
1 2	府中市立南白糸台小学校ＰＴ水質調査	東京都	多摩川及び周辺の用水路
1 3	浅川流域市民フォーラム	東京都	浅川
1 4	日野市立滝合小学校	東京都	浅川
1 5	かわさき水辺の楽校とどろき校	神奈川県	多摩川
1 6	和泉川・東山水辺愛護会	神奈川県	和泉川
1 7	富山県立有磯高等学校	富山県	仏生寺川、神代川、万尾川
1 8	NP0 法人 エコプラザさばえ	福井県	日野川流域
1 9	「狛江水辺の楽校」運営協議会	山梨県	小菅川
2 0	箕輪町立箕輪中学校 2 学年 2 組・3 組	長野県	諏訪湖、天竜川、西天竜川 他
2 1	木祖村立木祖小学校	長野県	木曽川
2 2	長野県上伊那農業高等学校	長野県	天竜川
2 3	NP0 法人 信州岩魚の学校	長野県	産川
2 4	牟礼村立 牟礼東小学校	長野県	滝沢川
2 5	三岳村立三岳中学校	長野県	本洞川
2 6	岩倉の水辺を守る会	愛知県	五条川
2 7	天白・川辺の楽校	愛知県	天白川
2 8	梅津まちづくり委員会	京都府	有栖川
2 9	横田町立馬木小学校中学年	島根県	大馬木川、砂田川
3 0	六日市町立吉賀中学校	島根県	高津川
3 1	しまね四季の学び舎	島根県	宍道湖岸、斐伊川、神戸川
3 2	島根県平田市立鰐淵小学校猪目分校	島根県	猪目川、猪目海岸
3 3	エコネットワーク津山	岡山県	吉井川、宮川、横野川
3 4	岡山県真庭郡落合町立津田小学校	岡山県	旦土川
3 5	財団法人水島地域環境再生財団	岡山県	八間川
3 6	大柿町教育委員会	広島県	釣附海岸
3 7	落合小学校	徳島県	祖谷川
3 8	香川の水辺を考える会	香川県	有明海岸

【平成 16 年度】（３）

団 体 名		活 動 場 所	
3 9	四国河川文化ネットワーク	愛媛県	肱川
4 0	福岡市立博多工業高校 工業クラブ（建築）	福岡県	那珂川
4 1	佐賀県立厳木高等学校	佐賀県	松浦川、厳木川
4 2	西里校区まちづくり委員会	熊本県	井芹川
4 3	N 水質調査N 生物調査U せせらぎスクール	大分県	一ノ瀬川
4 4	川の応援団	宮崎県	岩戸川
4 5	大淀川流域ネットワーク	宮崎県、鹿児島県	大淀川
4 6	ジョイントリバー交流会	鹿児島県	川内川

【平成 17 年度】（１）

団 体 名		活 動 場 所	
1	上川町立上川中学校	北海道	石狩川、留辺志部川
2	NP0 法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ	北海道	幌別来馬川
3	NP0 ひがし大雪自然ガイドセンター	北海道	音更川
4	北海道のカワシンジュガイを守る会	北海道	ベベルイ川
5	大曲の水辺に夢をつくろう会	岩手県	北上川
6	NP0 法人 蕪栗ぬまっこくらぶ	宮城県	小山田川
7	宮城県本吉郡志津川町立市頭川小学校	宮城県	八幡川、志津川湾
8	出羽乃国漂流隊	山形県	最上川、置賜白川
9	茨城県稲敷郡美浦村立美浦中学校 科学部	茨城県	霞ヶ浦沿岸部
1 0	逆川を愛する会	茨城県	逆川
1 1	余笹川流域連携ネットワーク	栃木県	余笹川、黒川、三蔵川
1 2	半田せせらぎ会	群馬県	利根川
1 3	ヤマメクラブ	群馬県	雄川
1 4	袖ヶ浦市立中川小学校	千葉県	小櫃川
1 5	海老川の水をきれいにする会	千葉県	海老川
1 6	川づくり・清瀬の会	東京都	柳瀬川、空堀川
1 7	せたがや野川の会	東京都	多摩川、川野川
1 8	NP0 法人 多摩川環境研究会	東京都	多摩川
1 9	喜多見ポンボコ会議	東京都	野川
2 0	NP0 法人 ふるさと環境市民	神奈川県	目久尻川
2 1	箱根ジュニアエコクラブ	神奈川県	早川
2 2	和泉川東山の水辺愛護会	神奈川県	和泉川

【平成 17 年度】（2）

	団 体 名	活 動 場 所	
2 3	通船川・栗ノ木川ルネッサンス	新潟県	通船川、栗ノ木川、阿賀野川
2 4	長岡市立東中学校	新潟県	信濃川
2 5	富山県朝日町立五箇庄小学校	富山県	小川
2 6	富山県立有磯高等学校	富山県	仏生寺川、万尾川、神代川
2 7	石川県小松市立栗津小学校	石川県	日用川、栗津川
2 8	NP0 法人 エコプラザさばえ	福井県	河和田川
2 9	河和田自然に親しむ会	福井県	河和田川、天神川
3 0	梓川 奈良井川 水辺の学校	長野県	梓川
3 1	豊科町郷土物館	長野県	屑川
3 2	NP0 法人 信州いわなの学校	長野県	千曲川、神川
3 3	長野ホタルの会	長野県、愛知県	湯福川、浅川、蛭川、藤沢川 他
3 4	NP0 法人 山の自然文化研究センター	岐阜県	高原川
3 5	NP0 法人「水の国」しずおかフォーラム	静岡県	安倍川、藁科川
3 6	愛知県蒲郡市立中央小学校	愛知県	落合川
3 7	鈴鹿亀山生活創造圏ビジョン推進会議	三重県	鈴鹿川
3 8	鴨と蜚の里づくりグループ	滋賀県	天野川
3 9	草津塾	滋賀県	葉山川
4 0	鴨川を美しくする会	京都府	鴨川
4 1	梅津まちづくり委員会	京都府	有栖川
4 2	NP0 法人 流域調整室	京都府	木津川
4 3	エコロジーネットワーク	大阪府	万博記念公園夢の池
4 4	狭山の副池自然づくりの会	大阪府	狭山副池
4 5	川西市情報教育研究会	兵庫県	猪名川
4 6	自然と文化の森協会	兵庫県	猪名川
4 7	宇陀かわびとの会	奈良県	宇田川
4 8	馬木っ子ふるさと環境探偵団	島根県	砂田川、大馬木川
4 9	大谷幼稚園ふるさとクラブ	島根県	大谷川
5 0	でさきっずくらぶ	岡山県	出崎海岸
5 1	尾道市立木頃小学校	広島県	藤井川
5 2	三次市立青河小学校	広島県	小似川
5 3	芦田川環境マネジメントセンター	広島県	芦田川
5 4	すいすい倶楽部	広島県	沼田川

【平成 17 年度】（3）

	団 体 名	活 動 場 所	
5 5	カエルフォーラム	山口県	錦川
5 6	阿南市立椿小学校	徳島県	椿川
5 7	香川淡水魚研究会	香川県	香東川、鴨部川
5 8	香川の水辺を考える会	香川県	有明浜
5 9	高松市立檀紙小学校	香川県、愛媛県、徳島県	香東川、古川、肱川、吉野川
6 0	野村町環境にやさしい里づくり協議会	愛媛県	黒瀬川、稲生川、宇和川
6 1	町田川いやしとにぎわいづくりの会	佐賀県	町田川
6 2	自然と暮らしを考える研究会	佐賀県	厳木川
6 3	NP0 法人 五ヶ瀬自然学校	宮崎県	五ヶ瀬川
6 4	NP0 法人 大淀川流域ネットワーク	宮崎県	大淀川
6 5	薩摩仙台市立入来中学校	鹿児島県	樋脇川

【平成 18 年度】（1）

	団 体 名	活 動 場 所	
1	漁川子どもの水辺協議会	北海道	漁川
2	沙流川愛クラブ	北海道	沙流川
3	NP0 法人 後志利別川清流保護の会	北海道	後志利別川
4	湧別川流域会議実行委員会	北海道	湧別川
5	環境フォーラム北海道	北海道	精進川
6	NP0 法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ	北海道	胆振幌別川
7	NP0 法人 白神自然学校一ツ森校	青森県	赤石川
8	山形地区住みよい環境推進協議会	青森県	浅瀬石川
9	NP0 法人 水環境ネット東北	宮城県	広瀬川
1 0	多賀城市第二中学校	宮城県	砂押川
1 1	白川ダムビジョン推進会議	山形県	置賜白川
1 2	森の仲間たち	山形県	堀立遊水地
1 3	山形県立加茂水産高等学校 水産生物部	山形県	油戸川 他
1 4	さくら湖自然環境フォーラム実行委員会	福島県	大滝根川
1 5	蔵のまち清流づくり実行委員会	福島県	田付川 他
1 6	須賀川に清流を取り戻す市民の会	福島県	下の川
1 7	西郷くらしの会	福島県	阿武隈川
1 8	浜尾遊水地再生協議会	福島県	浜尾遊水地
1 9	鉾田市立新宮小学校	茨城県	北浦

【平成 18 年度】（2）

	団 体 名	活 動 場 所	
2 0	美浦村立美浦中学校 科学部	茨城県	霞ヶ浦 他
2 1	東茨城郡大洗町立祝町小学校	茨城県	那珂川
2 2	那須塩原市立鍋掛小学校	栃木県	清川
2 3	邑楽町立中野東小学校	栃木県、群馬県	渡良瀬川
2 4	邑楽町立高島小学校	群馬県	渡良瀬川
2 5	半田せせらぎ会	群馬県	利根川
2 6	桐生市立東中学校	群馬県	桐生川
2 7	NP0 法人 川島ネイチャークラブ	埼玉県	荒川 他
2 8	国分川夢クラブ／まつどの川づくり楽会	千葉県	国分川
2 9	NP0 法人 印旛野菜いかだの会	千葉県	印旛沼 他
3 0	木更津工業高等専門学校	千葉県	平川
3 1	NP0 法人 都市環境研究会	東京都	神田川 他
3 2	日野市立滝合小学校	東京都	浅川
3 3	NP0 法人 あそんで学ぶ環境と科学倶楽部	東京都	日本橋川 他
3 4	隅田川市民交流実行委員会	東京都	隅田川
3 5	ふるさと侍従川に親しむ会	神奈川県	侍従川
3 6	ずしし環境会議 まちなみと緑の創造部会	神奈川県	田越川
3 7	和泉川東山の水辺愛護会	神奈川県	和泉川
3 8	九十九曲がりの会	新潟県	能代川
3 9	加賀市立東谷口小学校	石川県	動橋川
4 0	女鳥羽川の自然を考える会	長野県	女鳥羽川
4 1	長野ホタルの会	長野県	善光寺平用水他
4 2	三峰川みらい会議	長野県	三峰川
4 3	松川水環境保全推進協議会	長野県	松川
4 4	名古屋堀川ライオンズクラブ	愛知県	堀川
4 5	岡崎市立美川中学校	愛知県	乙川 他
4 6	草津塾	滋賀県	葉山川
4 7	琵琶湖市民大学	滋賀県	野田沼
4 8	EIZOH.COM	京都府	紙屋川
4 9	梅津まちづくり委員会	京都府	有栖川
5 0	兵庫県南あわじ市立南淡中学校	兵庫県	百間堀
5 1	自然と文化の森協会	兵庫県	猪名川

【平成 18 年度】（3）

	団 体 名	活 動 場 所	
5 2	猪名川フォーラム実行委員会	兵庫県	猪名川
5 3	丹波市立西小学校	兵庫県	葛野川
5 4	五條市立阿太小学校	奈良県	吉野川
5 5	新宮市立蓬莱小学校	和歌山県	高田川 他
5 6	ふる里発見の会	鳥取県	日野川 他
5 7	馬木っ子ふるさと環境探偵団	島根県	砂田川 他
5 8	でさきっずくらぶ	岡山県	出崎海岸
5 9	サンちゃんと友だちになる会	広島県	江の川
6 0	芦田川環境マネジメントセンター	広島県	芦田川
6 1	尾道市立木頃小学校	広島県	藤井川
6 2	NP0 法人 吉野川みんなの会	徳島県	吉野川
6 3	香川の水辺を考える会	香川県	有明浜
6 4	筑後川まるごと博物館 運営委員会	福岡県	筑後川
6 5	福岡市立博多中学校	福岡県	博多川
6 6	自然と暮らしを考える研究会	佐賀県	厳木川
6 7	NP0 法人 五ヶ瀬自然学校	宮崎県	五ヶ瀬川
6 8	NP0 法人 大淀川流域ネットワーク	宮崎県	大淀川
6 9	薩摩川内市立入来中学校	鹿児島県	樋脇川
7 0	NP0 法人 マングローブ EE クラブ	沖縄県	中城湾東海沿

【平成 19 年度】（1）

	団 体 名	活 動 場 所	
1	青森県立五所川原農林高等学校	青森県	飯詰川
2	NP0 法人 会津の文化づくり	福島県	湯川
3	NP0 法人 アサザ基金	茨城県	霞ヶ浦
4	茨城県稲敷郡美浦村立美浦中学校 科学部	茨城県	霞ヶ浦
5	群馬県邑楽郡邑楽町立中野東小学校	群馬県、栃木県	渡良瀬川
6	余笹川流域連携ネットワーク	栃木県	余笹川、黒川、三蔵川
7	川原で遊ぼう会	東京都	平井川
8	NP0 法人 鶴見川流域ネットワーク	東京都	鶴見川
9	隅田川市民交流実行委員会	東京都	隅田川
1 0	ずしし環境会議 まちなみと緑の創造部会	神奈川県	田越川
1 1	鶴見川下流ネットワーク・鶴見（下流ネット鶴見）	神奈川県	鶴見川

【平成 19 年度】（2）

	団 体 名	活 動 場 所	
1 2	森のココペリ	山梨県	鶴川、方屋川、飯尾川
1 3	遠山川探検隊「まめなかうりんぼう」	長野県	遠山川
1 4	NPO 法人 長良川環境レンジャー協会	岐阜県	長良川
1 5	鈴鹿高等学校自然科学部	三重県	鈴鹿川
1 6	NPO 法人 瀬田川リバブレ隊	滋賀県	瀬田川、琵琶湖畔
1 7	琵琶湖市民大学	滋賀県	余呉湖、琵琶湖
1 8	NPO 法人 地域生活文化 ENN（えん）	滋賀県	針江大川・カバタ
1 9	伯母 Q 五郎～伯母川研究子どもエコクラブ～	滋賀県	秋川、伯母川、駒井川、横津川 他
2 0	宮津美しさ探検隊	京都府	大手川
2 1	明石高専河川環境研究室	兵庫県	喜瀬川、鹿島川
2 2	丹波市立西小学校	兵庫県	葛野川
2 3	都賀行公民館子供クラブ	島根県	猪谷川
2 4	忌部わくわくサファリ	島根県	忌部川
2 5	北陽わんぱくクラブ	島根県	斐伊川他
2 6	すいすい倶楽部	広島県	沼田川
2 7	芦田川環境マネジメントセンター	広島県	芦田川
2 8	水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊	山口県	佐波川
2 9	千代田のアサザ保存会	佐賀県	中地江川
3 0	自然と暮らしを考える研究会	佐賀県	厳木川
3 1	長崎県立大学経済学部地域政策学科 西村研究室	長崎県	相浦川
3 2	NPO 法人 みずのとら BELL 隊	熊本県	加勢川
3 3	NPO 法人 水辺に遊ぶ会	大分県	中津干潟、山国川
3 4	NPO 法人 薩摩川内市立入来中学校	宮崎県	五ヶ瀬川
3 5	薩摩川内市立入来中学校	鹿児島県	樋脇川
3 6	報得川と美海の会	沖縄県	報得川

【平成 20 年度】（1）

	団 体 名	活 動 場 所	
1	河川愛護団体 リバーネット21 ながぬま	北海道	夕張川
2	NPO 法人 登別自然活動支援組織たんがくらぶ	北海道	胆振幌別川
3	青森県立五所川原農林高等学校バイオトープ研究チーム	青森県	飯詰川
4	田野畑村立沼袋小学校	岩手県	普代川
5	あらかわっ子 荒川川探検隊	岩手県	荒川

【平成 20 年度】（2）

	団 体 名	活 動 場 所	
6	指首野川水辺の環境推進協議会	山形県	指首野川
7	かしま環境ネットワーク <環境学習サポートプロジェクト>	茨城県	北浦、九反田池 他
8	茨城県稲敷郡美浦村立美浦中学校 科学部	茨城県	霞ヶ浦
9	NPO 法人 ちば環境情報センター	千葉県	都川
1 0	ちば・谷津田フォーラム	千葉県	都川
1 1	かもめのクリーン隊	千葉県	中央港 1
1 2	川づくり・清瀬の会	埼玉県、東京都	柳瀬川、空堀川
1 3	川原で遊ぶ会	東京都	平井川
1 4	NPO 法人 鶴見川流域ネットワークینگ	東京都	鶴見川
1 5	横須賀「水と環境」研究会	神奈川県	平作川、竹川
1 6	遠山川探検隊「まめなかうりんぼう」	長野県	遠山川
1 7	女鳥羽川の自然を考える会	長野県	女鳥羽川
1 8	NPO 法人 静岡県フィッシングインストラクター協会（JOFI 静岡）	静岡県	静波海岸、勝間田川 他
1 9	海辺工房ひとで	静岡県	真崎海岸 等
2 0	草津塾	滋賀県	葉山川
2 1	NPO 法人 瀬田川リバブレ隊	滋賀県	瀬田川
2 2	大津市立逢坂小学校	滋賀県	吾妻川
2 3	明石高専河川環境研究室	兵庫県	喜瀬川
2 4	千種川圏域清流づくり委員会	兵庫県	千種川
2 5	丹波市立西小学校	兵庫県	葛野川
2 6	宝塚市立西山小学校	兵庫県	逆瀬川
2 7	尼崎市立城内高等学校	兵庫県	庄下川
2 8	宇陀かわびとの会	奈良県	宇陀川
2 9	橿原市立畝傍中学校・科学部	奈良県	飛鳥川
3 0	新宮市立蓬萊小学校	和歌山県	熊野川
3 1	救助研究会	島根県	斐伊川、江の川 他
3 2	こどもエコクラブ 忌部わくわくサファリ	島根県	忌部川
3 3	芦田川環境マネジメントセンター	広島県	芦田川
3 4	筑後川まるごと博物館運営委員会	福岡県	筑後川、高良川
3 5	樋井川を楽しむ会	福岡県	樋井川
3 6	自然と暮らしを考える研究会	佐賀県	厳木川
3 7	NPO 法人 みずのとら BELL 隊	熊本県	加勢川

【平成 20 年度】（3）

	団 体 名	活 動 場 所	
3 8	NPO 法人 白川流域リバーネットワーク	熊本県	白川
3 9	薩摩川内市入来中学校	鹿児島県	樋脇川

【平成 21 年度】（1）

	団 体 名	活 動 場 所	
1	下内野自治会	岩手県	砂鉄川
2	石巻市立橋浦小学校	宮城県	北上川
3	広瀬川 1 万人プロジェクト実行委員会	宮城県	広瀬川、関上海岸
4	千門町蛸の会	山形県	指首野川
5	茨城県稲敷郡美浦村立大谷小学校	茨城県	霞ヶ浦、高橋川
6	NPO 法人 ちば環境情報センター	千葉県	都川
7	NPO 法人 フジの森	東京都	矢沢川
8	川と水辺を楽しむプロジェクト	東京都	石神井川中流域
9	NPO 法人 鶴見川流域ネットワーク	東京都、神奈川県	鶴見川
1 0	ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会	神奈川県	田越川
1 1	松川東小学校	長野県	間沢川、天竜川
1 2	千曲市環境市民会議	長野県	千曲川
1 3	琵琶湖市民大学	滋賀県	琵琶湖
1 4	NPO 法人 プロジェクト保津川	京都府	保津川
1 5	服部緑地・天竺川周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会	大阪府	天竺川
1 6	『まちの顔 谷山川を育む会』	兵庫県	谷山川
1 7	日本ハンザキ研究所	兵庫県	市川
1 8	水辺に学ぶプロジェクト	兵庫県	喜瀬川
1 9	島根県出雲市立鰐淵小学校猪目分校	島根県	猪目川、猪目海岸
2 0	こどもエコクラブ 忌部わくわくサファリ	島根県	忌部川
2 1	吉賀町立七日市小学校 4 年生（高津川調べたい）	島根県	高津川
2 2	都賀行公民館	島根県	大原川
2 3	芦田川環境マネジメントセンター	広島県	芦田川
1 8	京橋川かいわいあしがるクラブ	広島県	京橋川
1 9	NPO 法人 徳島保全生物学研究会	徳島県	新町川
2 0	特定非営利活動法人 則松金山川コスモス会	福岡県	金山川
2 1	自然と暮らしを考える研究会	佐賀県	厳木川
2 2	NPO 法人 みずのとら BELL 隊	熊本県	加勢川

【平成 21 年度】（2）

	団 体 名	活 動 場 所	
2 3	住吉小学校「親力の会」その他、地域の方々	宮崎県	新名爪川
2 4	大島郡徳之島町立亀津中学校	鹿児島県	大瀬川
2 5	安全・安心でおいしい地下水連絡協議会設立準備会	各都道府県	－

【平成 22 年度】

	団 体 名	活 動 場 所	
1	NPO 法人 河川環境センター知利別川を愛する会	北海道	知利別川
2	NPO 法人 いわき環境研究室	福島県	夏井川、戸草川、藤原川
3	保原町環境ワーキンググループ	福島県	古川、東根川、伝樋川 他
4	松山城跡周辺の市野川を再生する会	埼玉県	市野川
5	坂川とまちづくり市民の会	千葉県	坂川
6	NPO 法人 武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会	東京都	神田川、日本橋川、小名木川 他
7	南白糸台小学校せせらぎ広場運営協議会	東京都	矢川、府中用水
8	狛江市立狛江第六小学校	東京都	多摩川
9	川と水辺を楽しむプロジェクト	東京都	石神井川
1 0	塩谷分校	新潟県	女池
1 1	NPO 法人 河北潟湖沼研究所	石川県	河北潟
1 2	川の自然と文化研究所	長野県	奈良井川、梓川、万水川、女鳥羽川
1 3	NPO 法人 木曽川・水の始発駅	長野県、愛知県 他	味噌川、木曽三川
1 4	女鳥羽川のホタルの里を守る会	長野県	女鳥羽川
1 5	山崎川グリーンアップ	愛知県	山崎川
1 6	TANAKAMI こども環境クラブ	滋賀県	大戸川、天神川
1 7	NPO 法人 あいうえお塚	大阪府	大和川、内川
1 8	服部緑地・天竺川周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会	大阪府	天竺川
1 9	三谷生き物調査隊	奈良県	桜井市野草の里 ため池およびビオトープ
2 0	鳥取市立用瀬小学校	鳥取県	東井谷川
2 1	太宰府エコロなネットワー ク	福岡県	御笠川
2 2	熊本市立大江小学校	熊本県	白川、大井手川
2 3	NPO 法人 五ヶ瀬川流域ネットワーク	宮崎県	友内川
2 4	永田川里山会	鹿児島県	永田川

水辺を伝える 水辺でつながる ～平成22年度「水辺を活かす」活動事例集～

発行 平成24年2月
財団法人 リバーフロント整備センター
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号
TEL 03-6228-3860 FAX 03-3523-0640

担当 企画グループ 柏木／沼田

印刷・製本 西印刷株式会社

宝くじは、
地方自治体の公共事業等に
幅広く使われています。

NEW!

ワクワク、
続々。



宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。